

4 特定課題

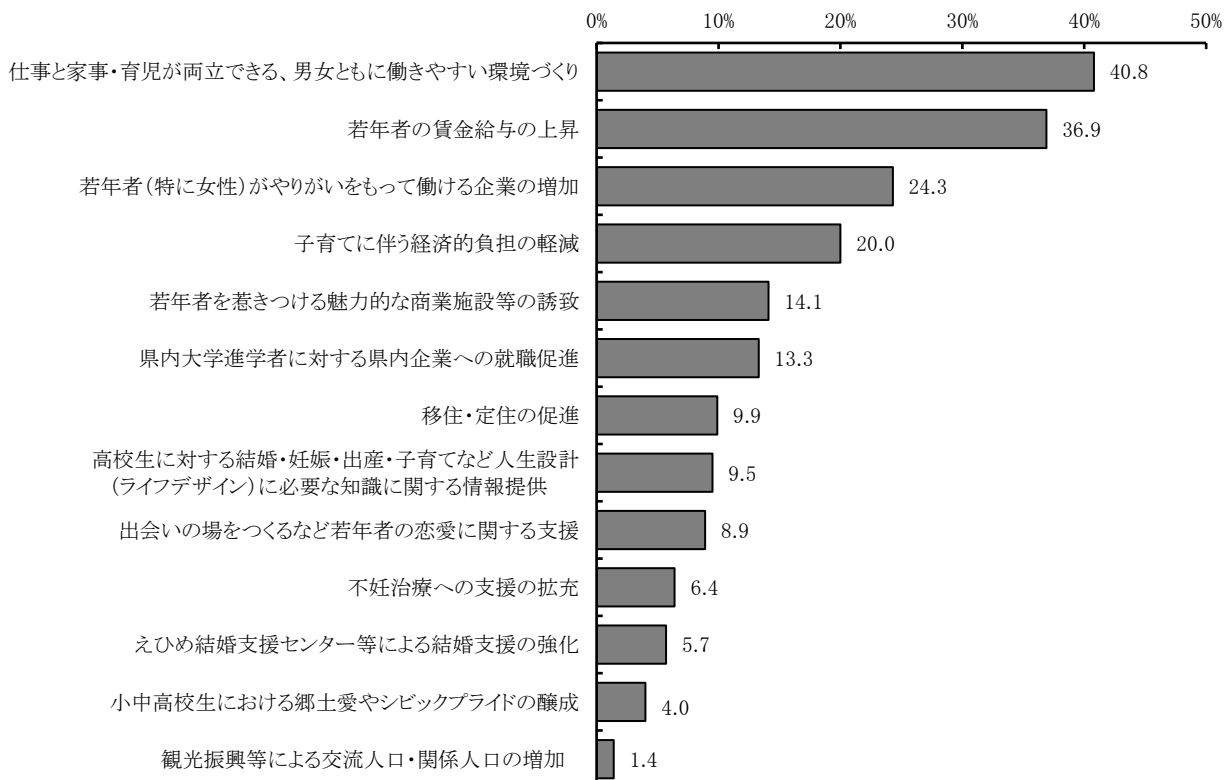
人口減少対策

問 33 人口減少克服への取組み

あなたは、人口減少対策として、県はどのようなことに特に力を入れたらよいと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。

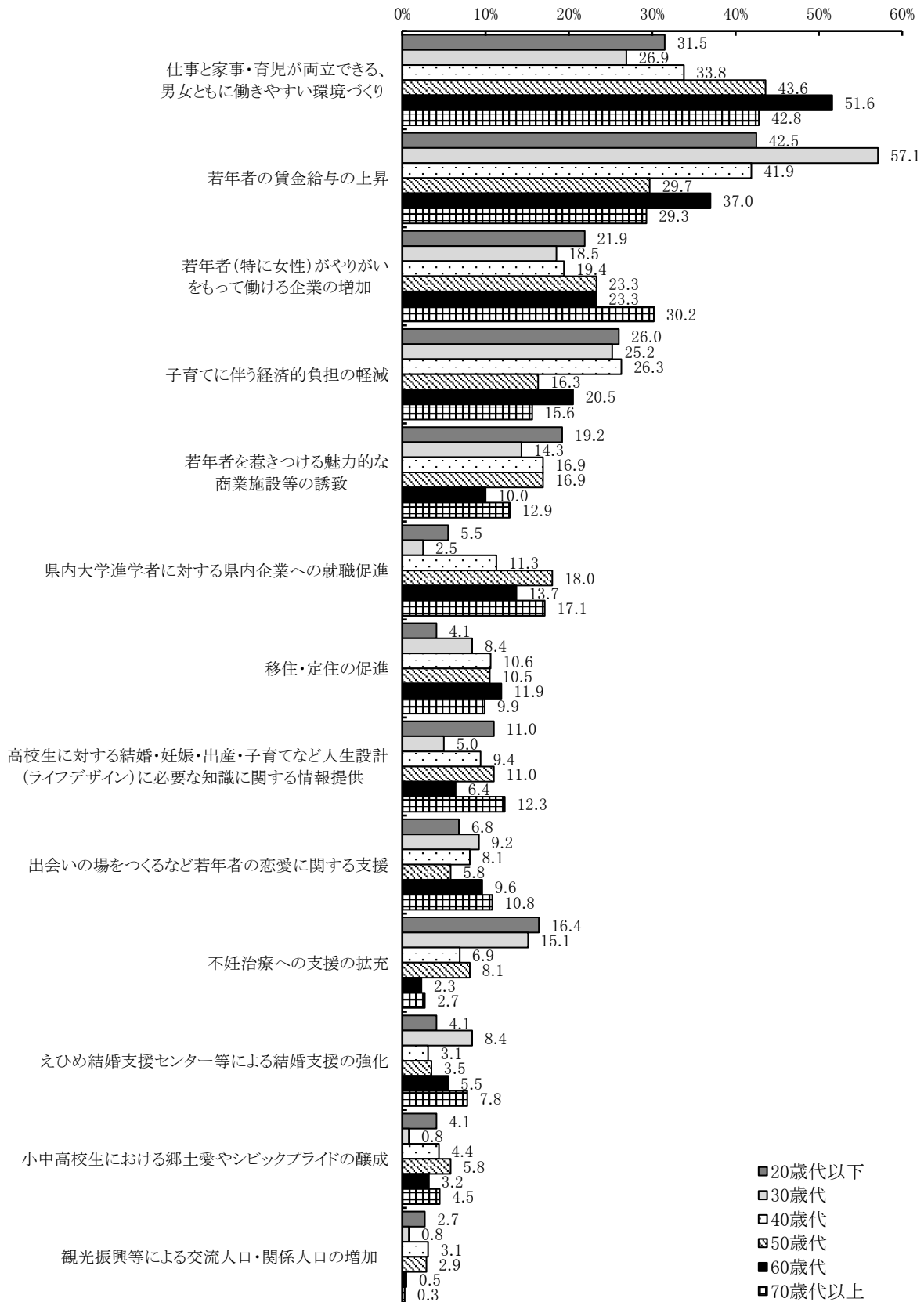
	(%)
1 小中高校生における郷土愛やシビックプライドの醸成	4.0
2 高校生に対する結婚・妊娠・出産・子育てなど人生設計（ライフデザイン）に必要な知識に関する情報提供	9.5
3 若年者の賃金給与の上昇	36.9
4 若年者（特に女性）がやりがいをもって働ける企業の増加	24.3
5 県内大学進学者に対する県内企業への就職促進	13.3
6 若年者を惹きつける魅力的な商業施設等の誘致	14.1
7 出会いの場をつくるなど若年者の恋愛に関する支援	8.9
8 えひめ結婚支援センター等による結婚支援の強化	5.7
9 不妊治療への支援の拡充	6.4
10 仕事と家事・育児が両立できる、男女ともに働きやすい環境づくり	40.8
11 子育てに伴う経済的負担の軽減	20.0
12 移住・定住の促進	9.9
13 観光振興等による交流人口・関係人口の増加	1.4

人口減少克服への取組みについて聞いたところ、「仕事と家事・育児が両立できる、男女ともに働きやすい環境づくり」（40.8%）と答えた人の割合が最も多く、以下「若年者の賃金給与の上昇」（36.9%）、「若年者（特に女性）がやりがいをもって働ける企業の増加」（24.3%）、「子育てに伴う経済的負担の軽減」（20.0%）、「若年者を惹きつける魅力的な商業施設等の誘致」（14.1%）などの順となっている。



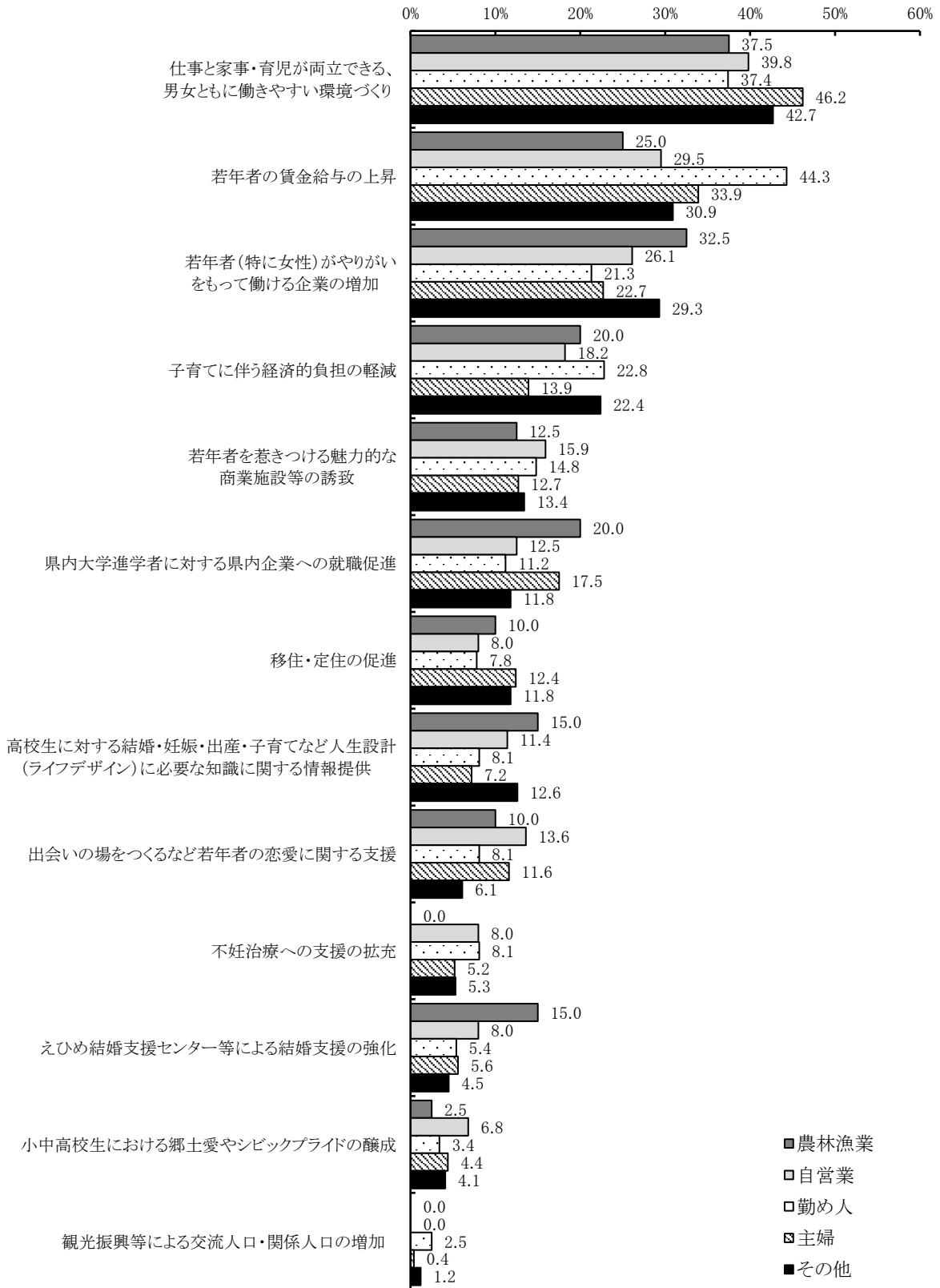
【年齢別】

年齢別にみると、40歳代以下は「若年者の賃金給与の上昇」と答えた人の割合が多く、50歳代以上では「仕事と家事・育児が両立できる、男女ともに働きやすい環境づくり」と答えた人の割合が多くなっている。「若年者の賃金給与の上昇」と答えた人の割合は30歳代で最も多くなっている。



【職業別】

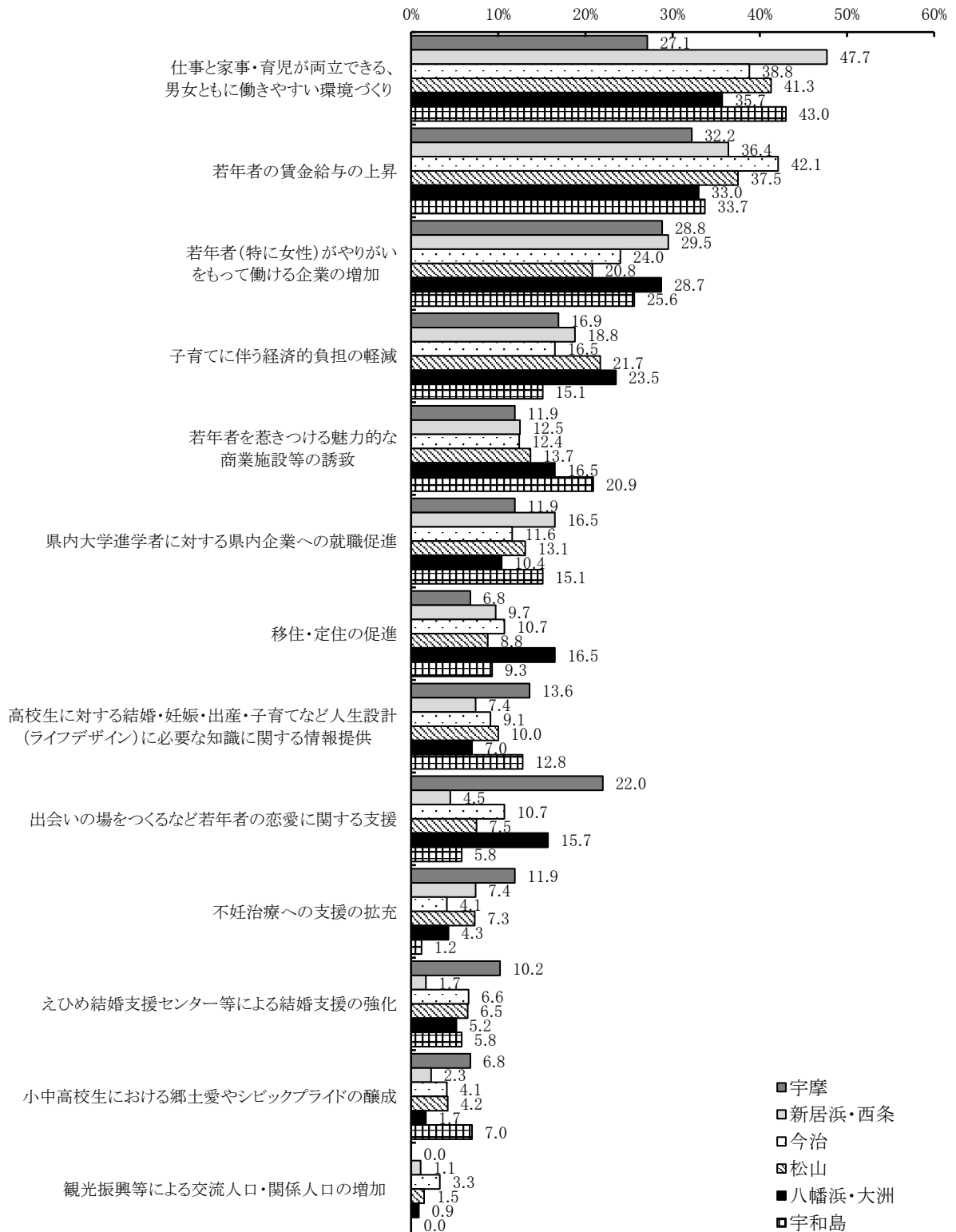
職業別にみると、勤め人を除く全ての職業で「仕事と家事・育児が両立できる、男女ともに働きやすい環境づくり」と答えた人の割合が最も多く、勤め人では「若年者の賃金給与の上昇」が最も多くなっている。また、主婦では「仕事と家事・育児が両立できる、男女ともに働きやすい環境づくり」と答えた人の割合が他の職業と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩圏域及び今治圏域を除く全ての圏域で「仕事と家事・育児が両立できる、男女ともに働きやすい環境づくり」と答えた人の割合が最も多く、宇摩圏域及び今治圏域では「若年者の賃金給与の上昇」が最も多くなっている。

また、宇摩圏域では「出会いの場をつくるなど若年者の恋愛に関する支援」が他の圏域と比較して多くなっている。



マイナンバーカードの取得促進

問 34 マイナンバーカードの取得状況

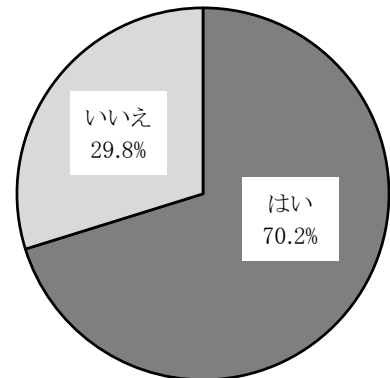
あなたは、マイナンバーカードを取得していますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

		(%)
1	はい	70.2
2	いいえ	29.8

↓
マイナンバーカードを取得していない理由は何ですか。次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

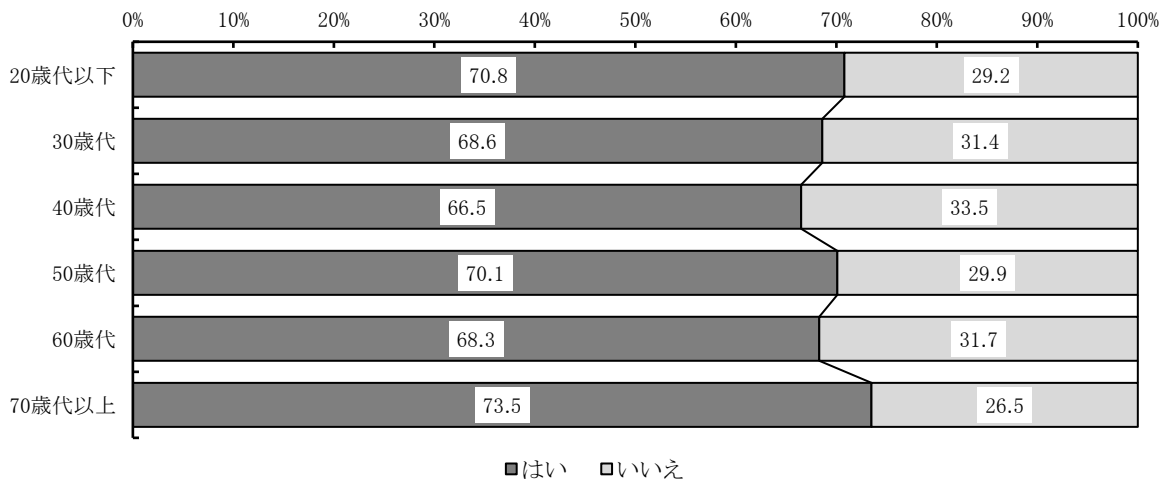
		(%)
(回答者=322人) (複数回答)		
1	取得する必要性・メリットが感じられないから	46.9
2	身分証明書になる者は他にあるから	44.4
3	個人情報の漏えいが心配だから	51.6
4	紛失や盗難が心配だから	37.0
5	申請手続きが面倒だから	38.2
6	申請方法がわからないから	7.1
7	その他	6.8

マイナンバーカードの取得促進について聞いたところ、「はい」と答えた人の割合が70.2%、「いいえ」が29.8%となっている。



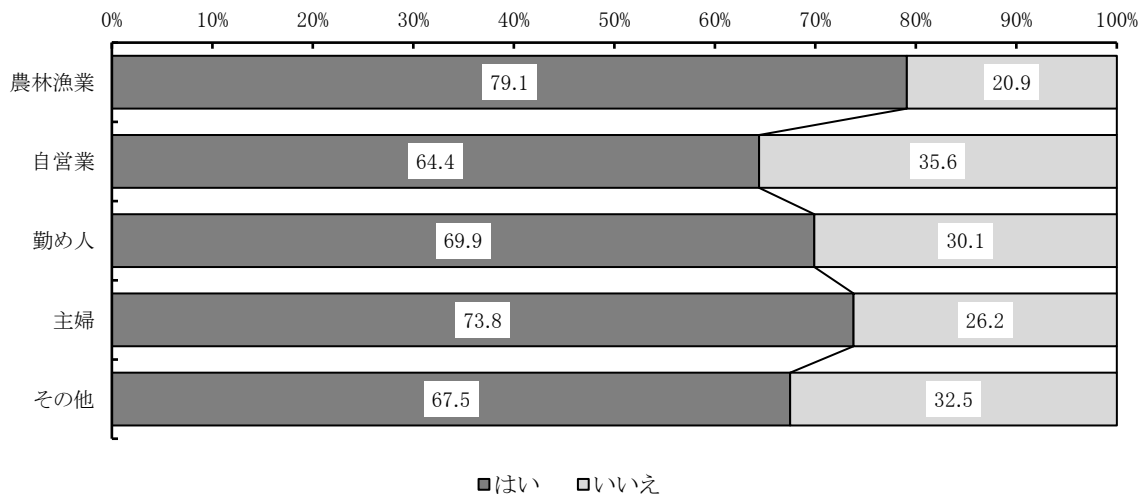
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「はい」と答えた人の割合が多く、中でも70歳代以上で73.5%と特に多くなっている。



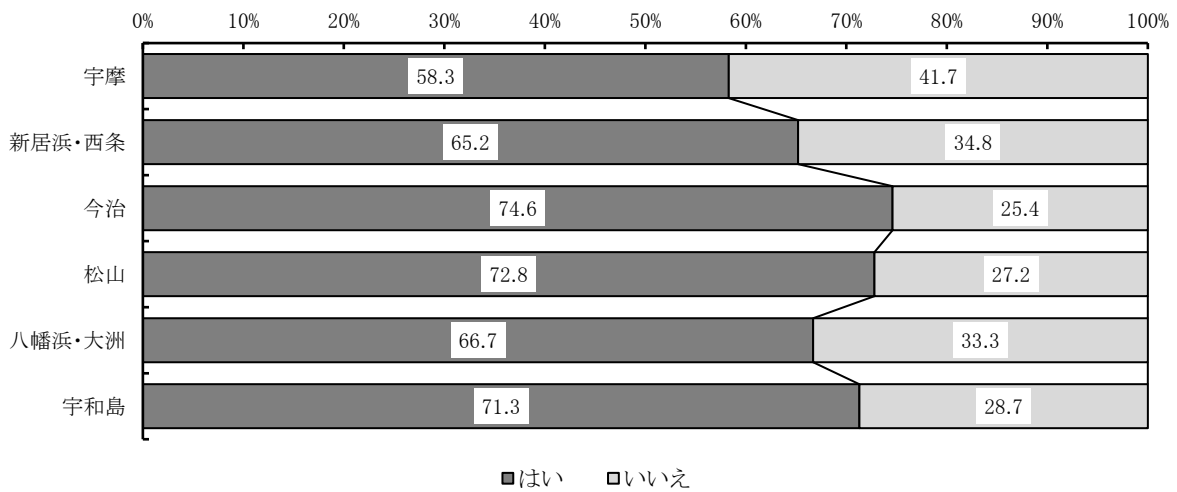
【職業別】

職業別にみると、全ての職業で「はい」と答えた人の割合が最も多く6割を超えている。中でも農林漁業で79.1%と特に多くなっている。



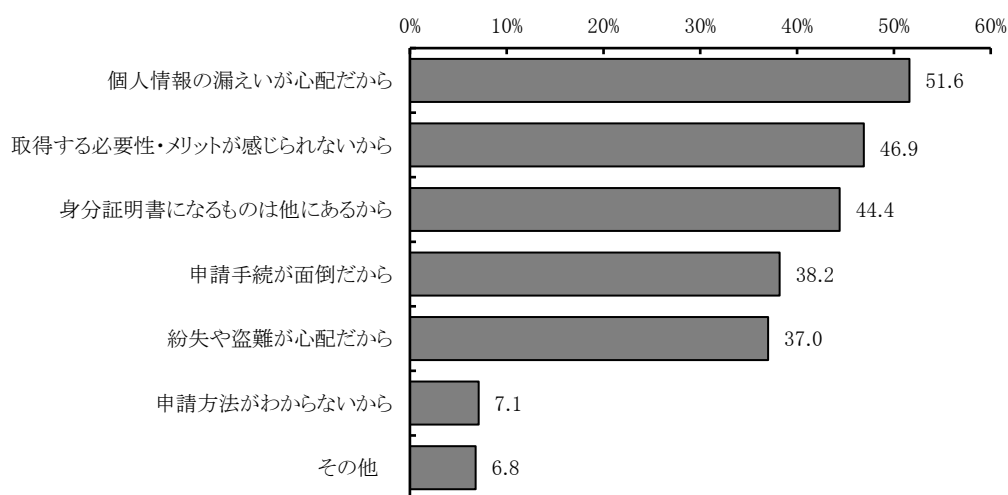
【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「はい」と答えた人の割合が最も多く5割を超え、特に今治圏域では74.6%と最も多くなっている。



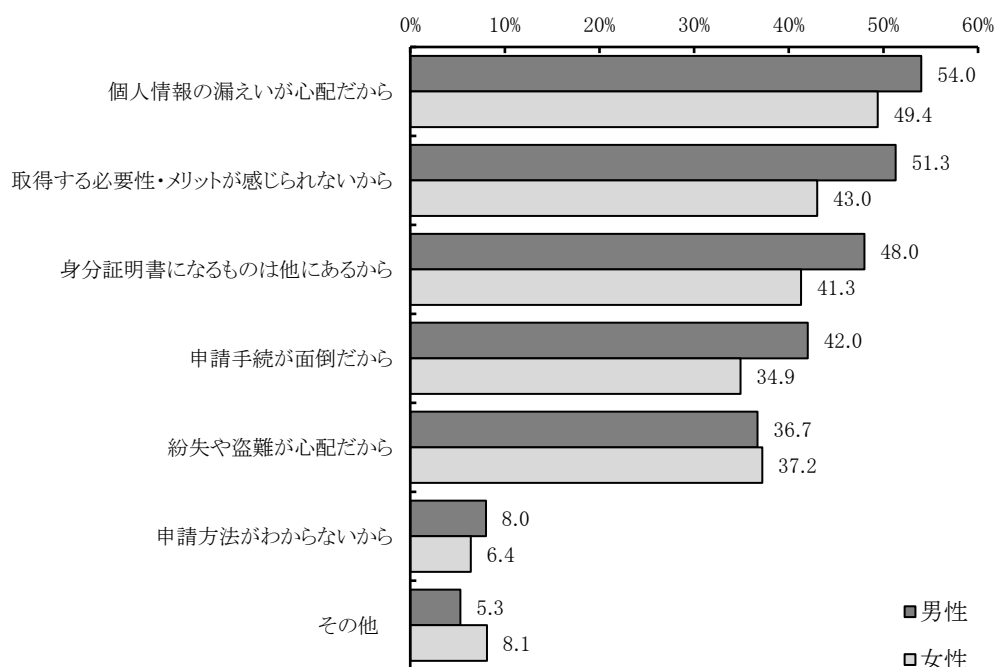
問 34-1 マイナンバーカードを取得していない理由

マイナンバーカードを取得していない理由について聞いたところ、「個人情報の漏えいが心配だから」(51.6%)と答えた人の割合が最も多く、以下「取得する必要性・メリットが感じられないから」(46.9%)、「身分証明書になるものは他にあるから」(44.4%)などの順となっている。



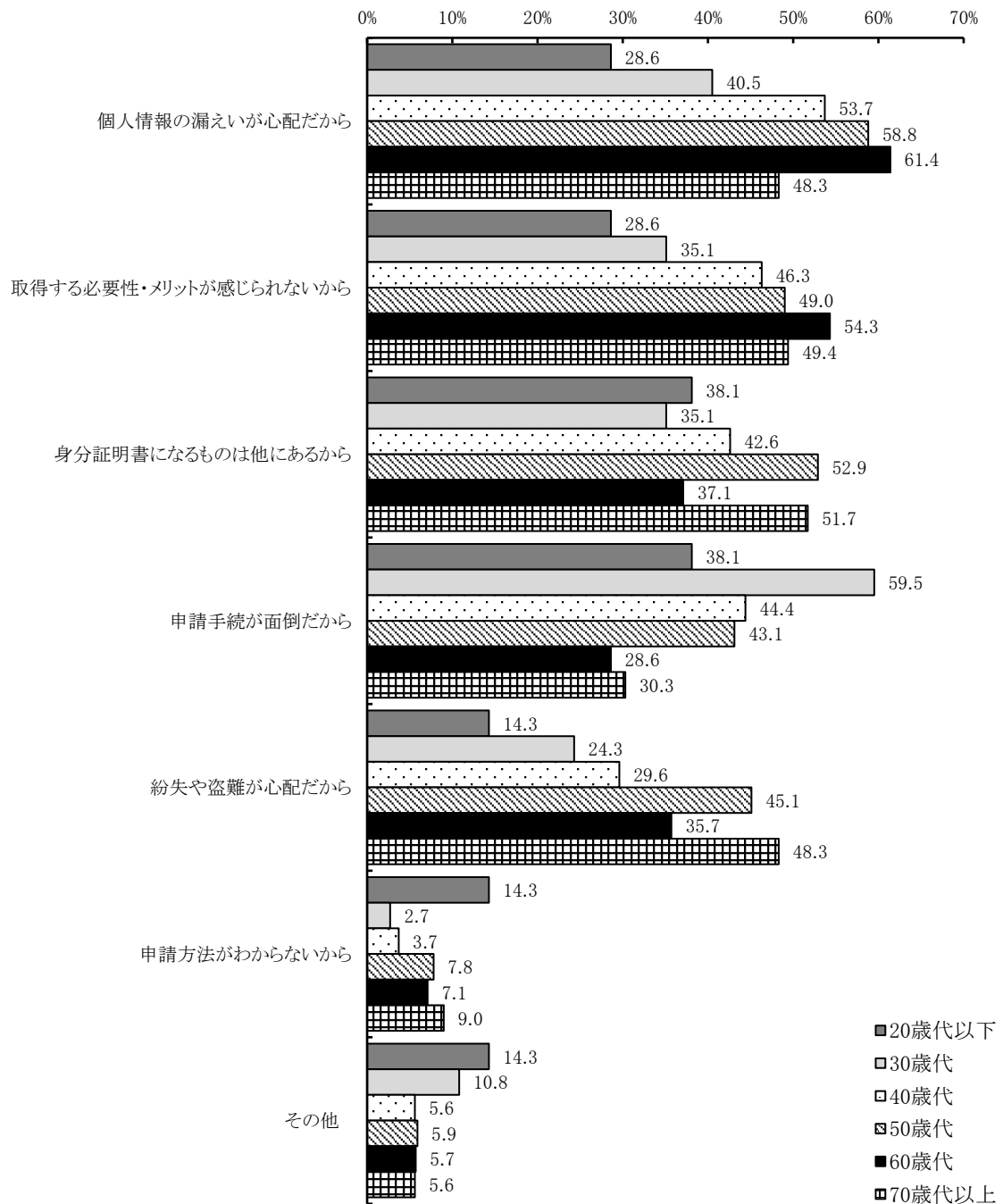
【性別】

性別にみると、男女共に「個人情報の漏えいが心配だから」と答えた人の割合が最も多くなっている。「紛失や盗難が心配だから」と答えた人の割合は、女性(37.2%)の方が男性(36.7%)より0.5ポイント多くなっている。「取得する必要性・メリットが感じられないから」と答えた人の割合は、男性(51.3%)の方が女性(43.0%)より8.3ポイント多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、20歳代では「身分証明書になるものは他にあるから」と「申請手続きが面倒だから」が同率で答えた人の割合が最も多くなっている。30歳代では「申請手続きが面倒だから」と答えた人の割合が最も多く、40歳代、50歳代及び60歳代では「個人情報の漏えいが心配だから」と答えた人の割合が最も多く、70歳代以上では「身分証明書になるものは他にあるから」と答えた人の割合が最も多くなっている。



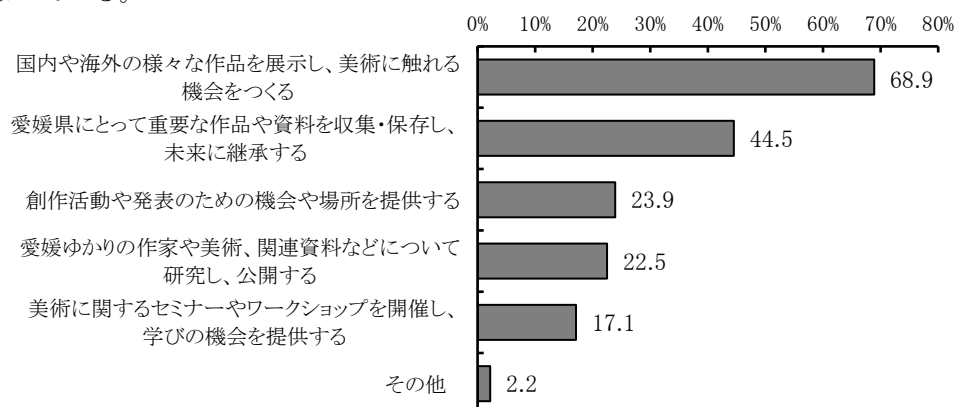
愛媛県美術館への期待

問 35 愛媛県美術館に期待する役割

愛媛県美術館は令和 5 年に創立 25 周年を迎えます。あなたが県美術館に特に期待する役割は何ですか。次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 国内や海外の様々な作品を展示し、美術に触れる機会をつくる	68.9
2 愛媛県にとって重要な作品や資料を収集・保存し、未来に継承する	44.5
3 美術に関するセミナーやワークショップを開催し、学びの機会を提供する	17.1
4 愛媛ゆかりの作家や美術、関連資料などについて研究し、公開する	22.5
5 創作活動や発表のための機会や場所を提供する	23.9
6 その他	2.2

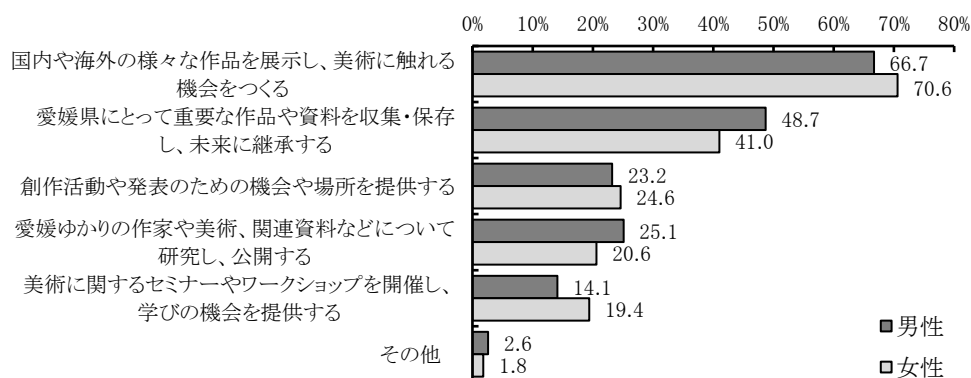
愛媛県美術館に特に期待する役割について聞いたところ、「国内や海外の様々な作品を展示し、美術に触れる機会をつくる」(68.9%)と答えた人の割合が最も多く、以下「愛媛県にとって重要な作品や資料を収集・保存し、未来に継承する」(44.5%)、「創作活動や発表のための機会や場所を提供する」(23.9%)などの順となっている。



【性別】

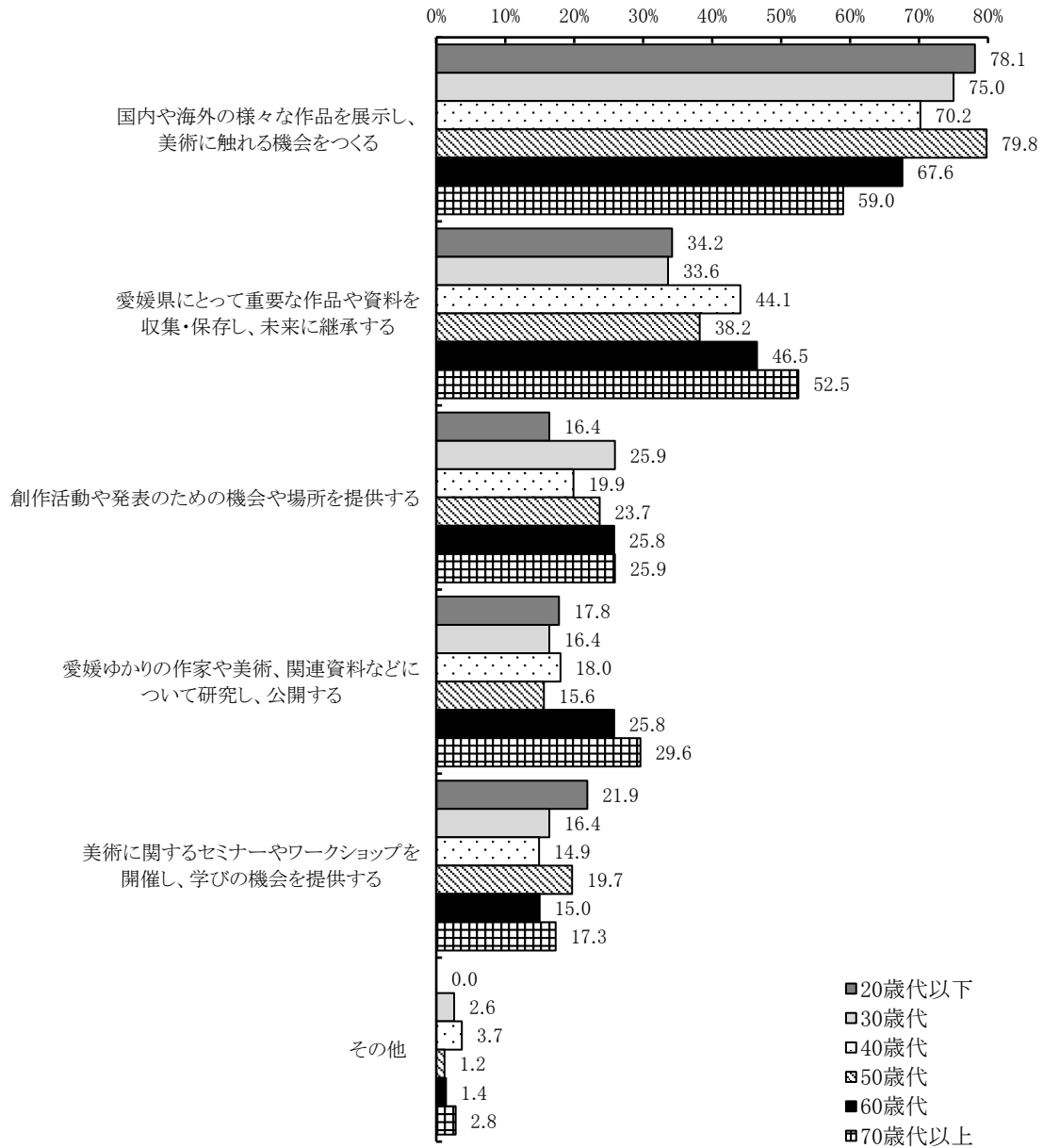
性別にみると、男女共に「国内や海外の様々な作品を展示し、美術に触れる機会をつくる」と答えた人の割合が最も多くなっている。「愛媛県にとって重要な作品や資料を収集・保存し、未来に継承する」と答えた人の割合は、男性(48.7%)の方が女性(41.0%)より7.7ポイント多くなっている。

一方、「美術に関するセミナーやワークショップを開催し、学びの機会を提供する」と答えた人の割合は女性(19.4%)の方が男性(14.1%)より5.3ポイント多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「国内や海外の様々な作品を展示し、美術に触れる機会をつくる」と答えた人の割合が最も多く5割を超えている。



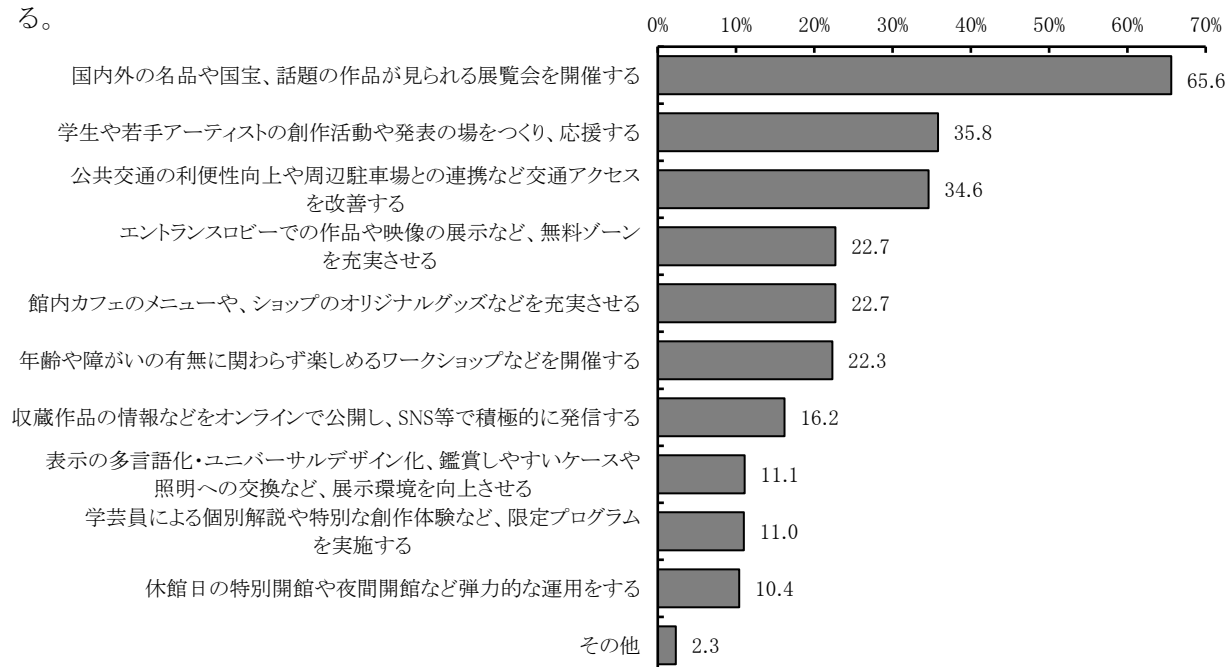
愛媛県美術館の利用増進

問 36 愛媛県美術館の集客を増やす取組み

愛媛県美術館がより多くの人に利用されるため、どのようなことに力を入れたらよいと思いますか。次の中から三つまで選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 国内外の名品や国宝、話題の作品が見られる展覧会を開催する	65.6	65.6
2 学生や若手アーティストの創作活動や発表の場をつくり、応援する	35.8	35.8
3 エントランスロビーでの作品や映像の展示など、無料ゾーンを充実させる	22.7	22.7
4 学芸員による個別解説や特別な創作体験など、限定プログラムを実施する	11.0	11.0
5 年齢や障がいの有無に関わらず楽しめるワークショップなどを開催する	22.3	22.3
6 収蔵作品の情報などをオンラインで公開し、SNS等で積極的に発信する	16.2	16.2
7 公共交通の利便性向上や周辺駐車場との連携など交通アクセスを改善する	34.6	34.6
8 休館日の特別開館や夜間開館など弾力的な運用をする	10.4	10.4
9 館内カフェのメニューや、ショップのオリジナルグッズなどを充実させる	22.7	22.7
10 表示の多言語化・ユニバーサルデザイン化、鑑賞しやすいケースや照明へ	11.1	11.1
11 その他	2.3	2.3

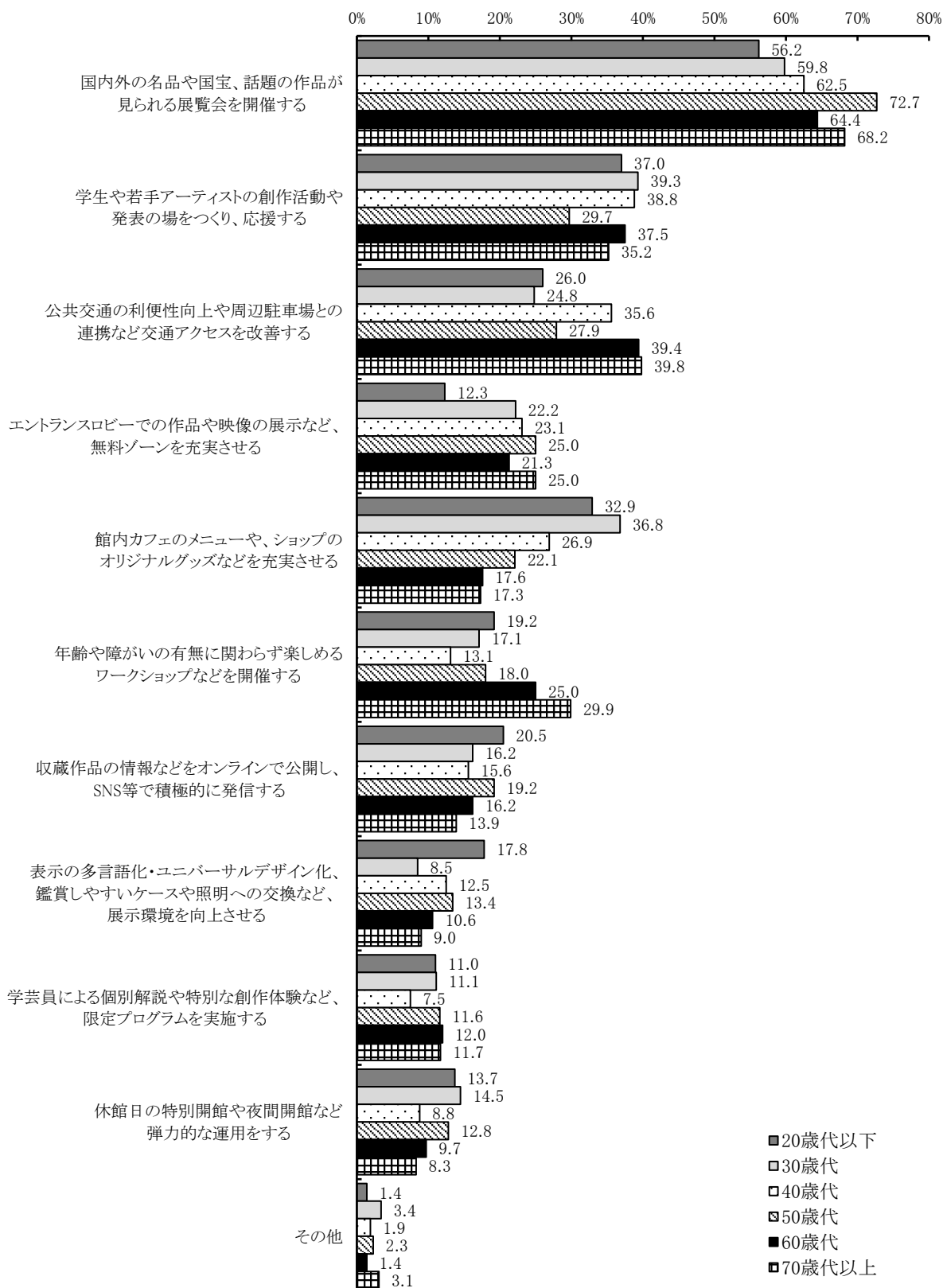
愛媛県美術館がより多くの人に利用されるため、どのようなことに力を入れたらよいかについて聞いたところ、「国内外の名品や国宝、話題の作品が見られる展覧会を開催する」(65.6%)と答えた人の割合が最も多く、以下「学生や若手アーティストの創作活動や発表の場をつくり、応援する」(35.8%)、「公共交通の利便性向上や周辺駐車場との連携など交通アクセスを改善する」(34.6%)などの順となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「国内外の名品や国宝、話題の作品が見られる展覧会を開催する」と答えた人の割合が最も多く5割を超えている。

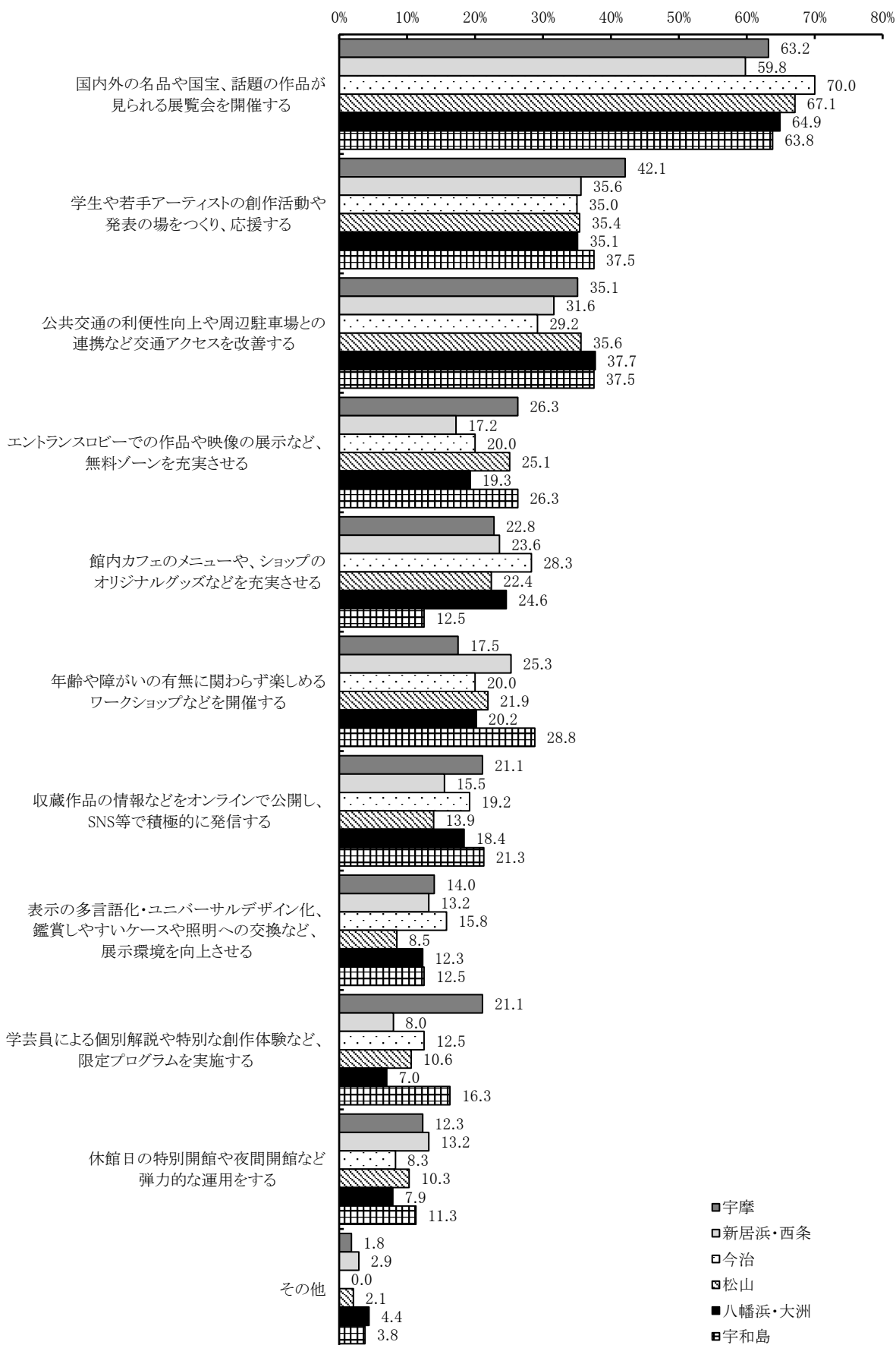
また、20歳代以下では「表示の多言語化・ユニバーサルデザイン化、鑑賞しやすいケースや照明への交換など、展示環境を向上させる」と答えた人の割合が他の年齢層と比べて最も多く、30歳代では「館内カフェのメニューや、ショップのオリジナルグッズなどを充実させる」と答えた人の割合が他の年齢層と比べて最も多く、60歳代以上では「公共交通の利便性向上や周辺駐車場との連携など交通アクセスを改善する」と答えた人の割合が他の年齢層と比べて最も多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「国内外の名品や国宝、話題の作品が見られる展覧会を開催する」と答えた人の割合が最も多く、中でも今治圏域では70.0%と特に多くなっている。

また、宇和島圏域では「年齢や障がいの有無に関わらず楽しめるワークショップなどを開催する」と答えた人の割合が他の圏域と比べて最も多くなっている。



自転車新文化の推進

問 37 自転車新文化の認知度

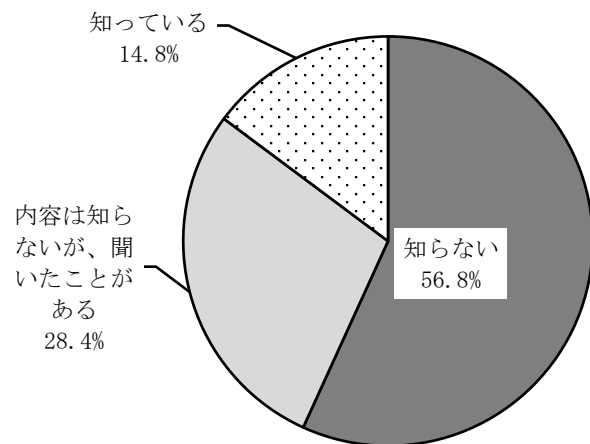
県では、平成 23 年度から「自転車新文化の推進」に取り組んでいます。あなたは、「自転車新文化」をご存じですか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

≪「自転車新文化」とは≫

サイクリングを核にして交流人口を拡大することにより、地域の活性化に繋げるとともに、県民に自転車を活用したライフスタイルを提案し、「健康」、「生きがい」、「友情」を育み、生活の向上を図ろうとする取組み

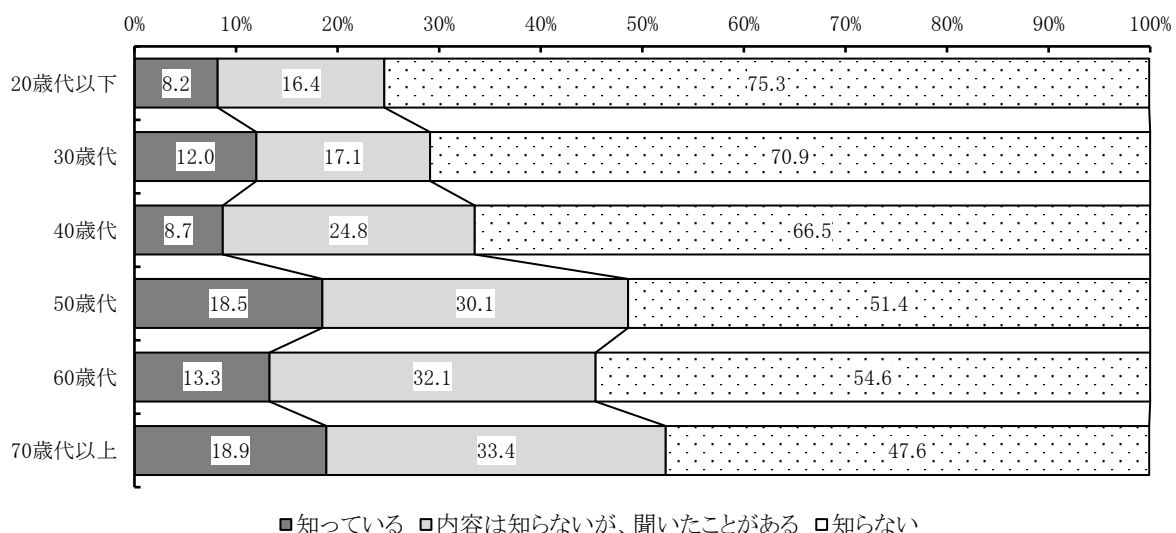
	(%)
1 知っている	14.8
2 内容は知らないが、聞いたことがある	28.4
3 知らない	56.8

自転車新文化について聞いたところ、「知っている」と答えた人の割合が 14.8%、「内容は知らないが、聞いたことがある」が 28.4%、「知らない」が 56.8%となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「知らない」と答えた人の割合が多く、30歳代以下では「知らない」と答えた人の割合が特に多く、7割を超えている。「知っている」、「内容は知らないが、聞いたことがある」と答えた人の割合は70歳代以上で最も多くなっている。

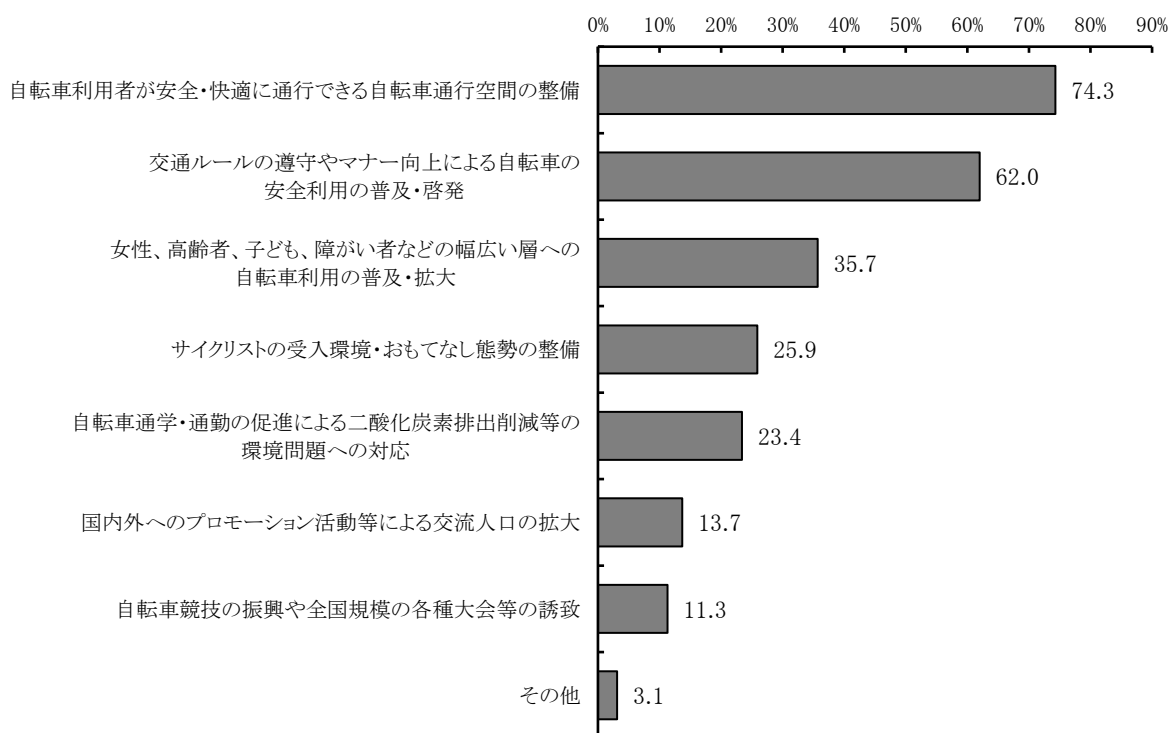


問 37-1 自転車新文化の普及・拡大に向けた県の取組み

「自転車新文化」の更なる普及・拡大のため、今後、県はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中から三つまで選んで番号を○で囲んでください。

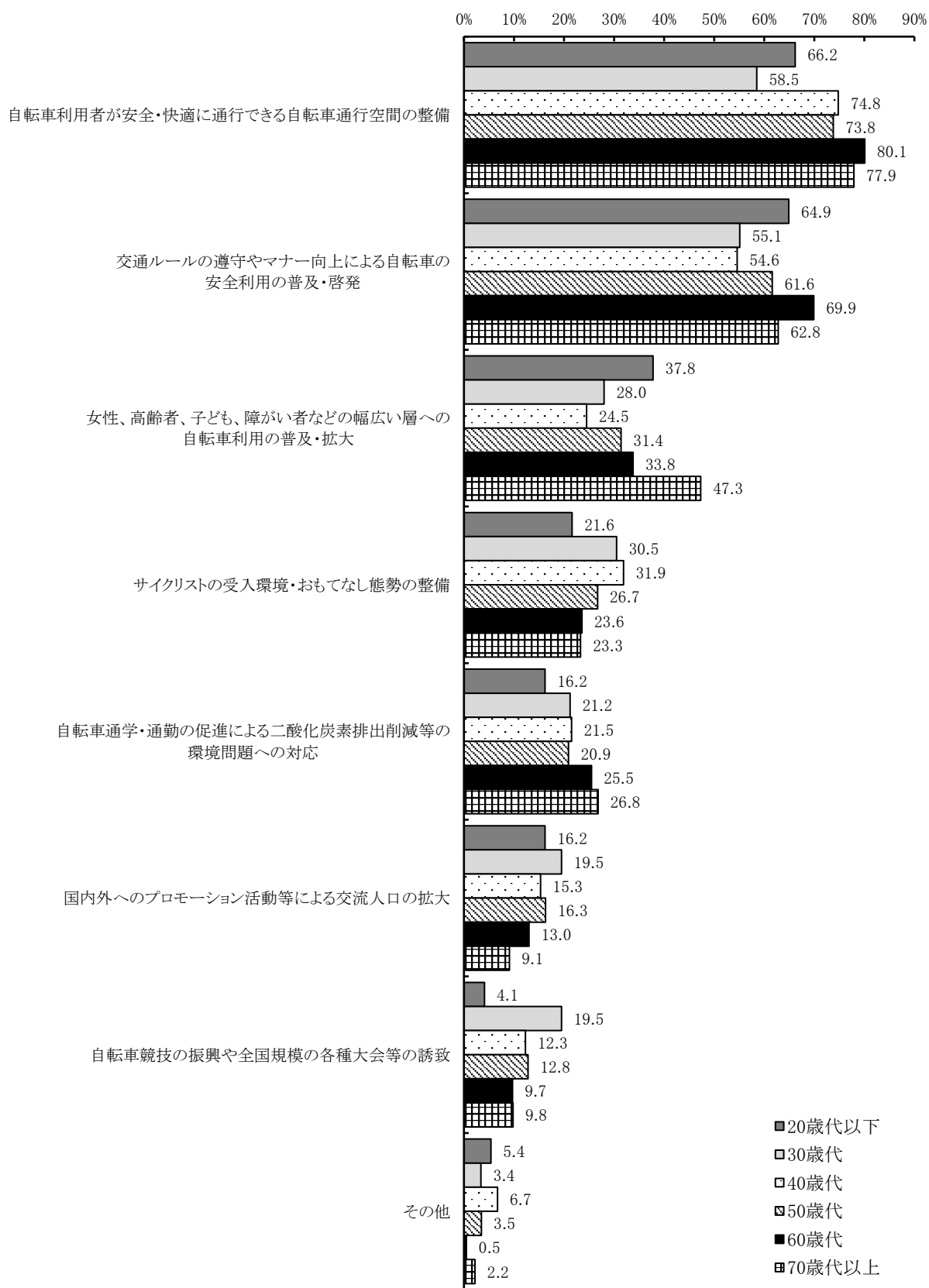
	(複数回答)	(%)
1 女性、高齢者、子ども、障がい者などの幅広い層への自転車利用の普及・拡大	3	5.7
2 自転車通学・通勤の促進による二酸化炭素排出削減等の環境問題への対応	2	3.4
3 国内外へのプロモーション活動等による交流人口の拡大	1	3.7
4 サイクリストの受入環境・おもてなし態勢の整備	2	5.9
5 自転車利用者が安全・快適に通行できる自転車通行空間の整備	7	4.3
6 交通ルールの遵守やマナー向上による自転車の安全利用の普及・啓発	6	2.0
7 自転車競技の振興や全国規模の各種大会等の誘致	1	1.3
8 その他		3.1

自転車新文化の普及・拡大のため力を入れる取組みについて聞いたところ、「自転車利用者が安全・快適に通行できる自転車通行空間の整備」(74.3%)と答えた人の割合が最も多く、以下「交通ルールの遵守やマナー向上による自転車の安全利用の普及・啓発」(62.0%)、「女性、高齢者、子ども、障がい者などの幅広い層への自転車利用の普及・拡大」(35.7%)、「サイクリストの受入環境・おもてなし態勢の整備」(25.9%)、「自転車通学・通勤の促進による二酸化炭素排出削減等の環境問題への対応」(23.4%)などの順となっている。



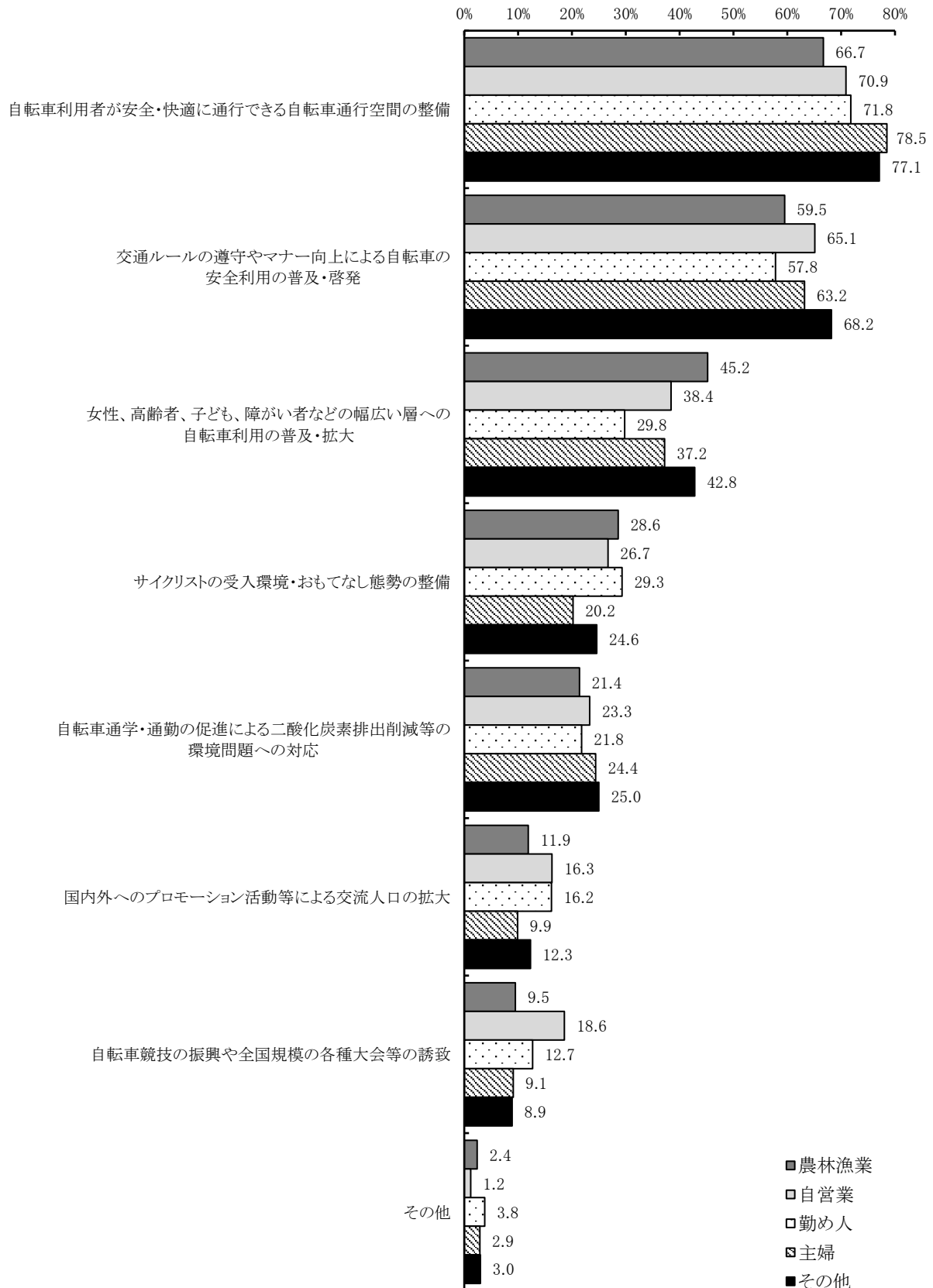
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「自転車利用者が安全・快適に通行できる自転車通行空間の整備」と答えた人の割合が最も多く5割を超えている。次いで、全ての年齢層で「交通ルールの遵守やマナー向上による自転車の安全利用の普及・啓発」と答えた人の割合が多く5割を超えている。



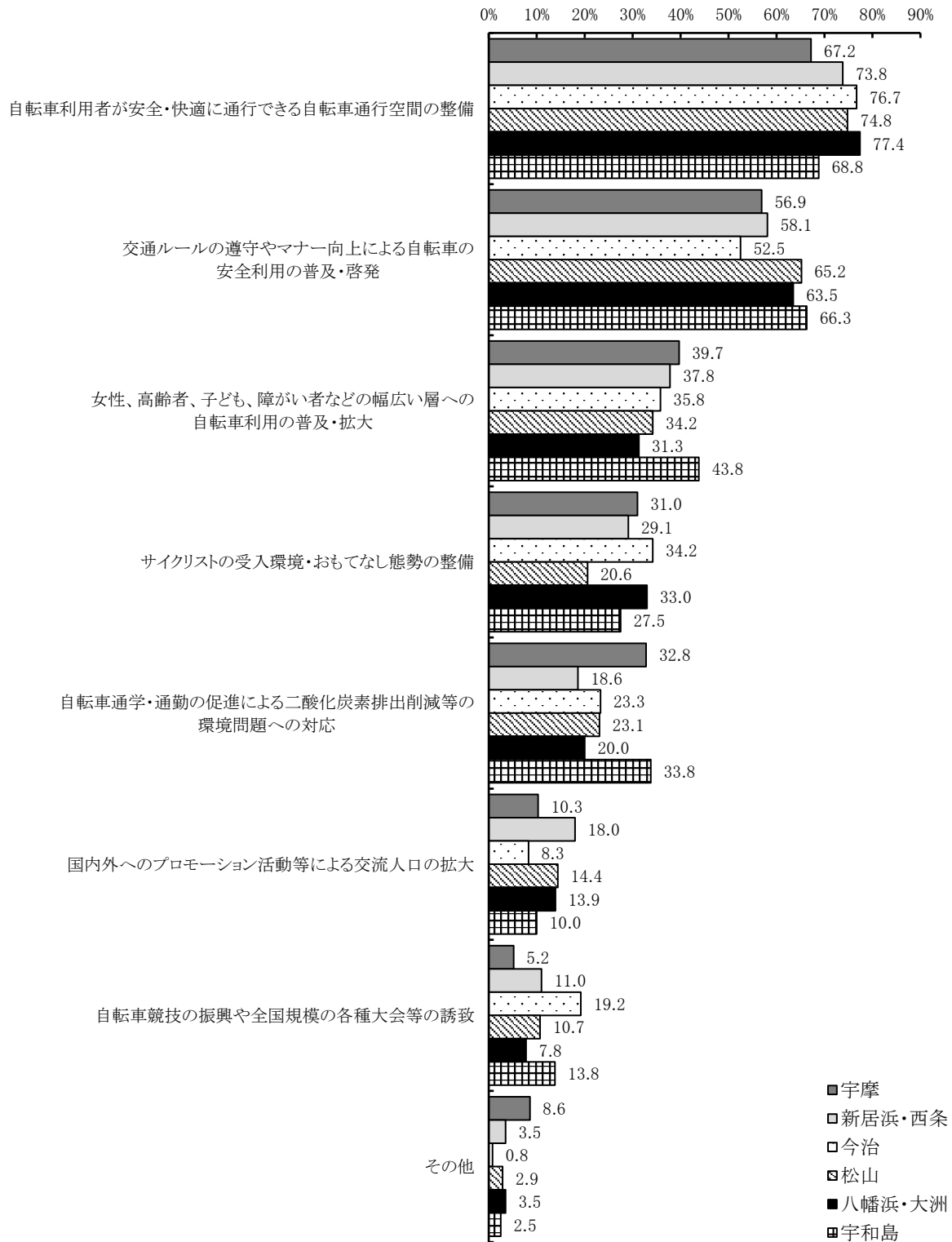
【職業別】

職業別にみると、全ての職業で「自転車利用者が安全・快適に通行できる自転車通行空間の整備」と答えた人の割合が最も多く6割を超えている。中でも主婦では78.5%と特に多くなっている。次いで、全ての職業で「交通ルールの遵守やマナー向上による自転車の安全利用の普及・啓発」と答えた人の割合も多く5割を超えている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「自転車利用者が安全・快適に通行できる自転車通行空間の整備」と答えた人の割合が最も多く6割を超えている。次いで、全ての圏域で「交通ルールの遵守やマナー向上による自転車の安全利用の普及・啓発」と答えた人の割合が多く5割を超えている。



自転車保険等加入義務化の認知度

問 38 自転車保険等への加入義務化の認知度

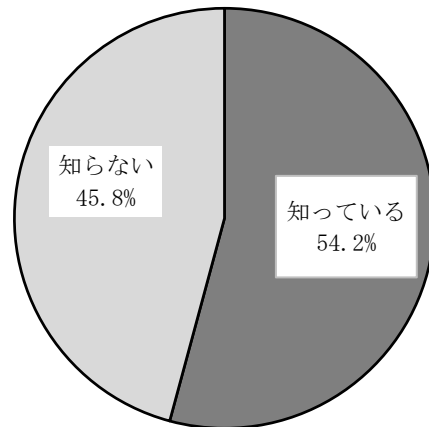
愛媛県では条例を一部改正し、令和2年4月から自転車利用者は、自転車事故の賠償責任に備える保険（以下「自転車保険等」という）に加入しなければならなくなりましたが、あなたは、このことを御存じですか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

		(%)
1	知っている	54.2
2	知らない	45.8

自転車保険等への加入義務化を知った経緯は何ですか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

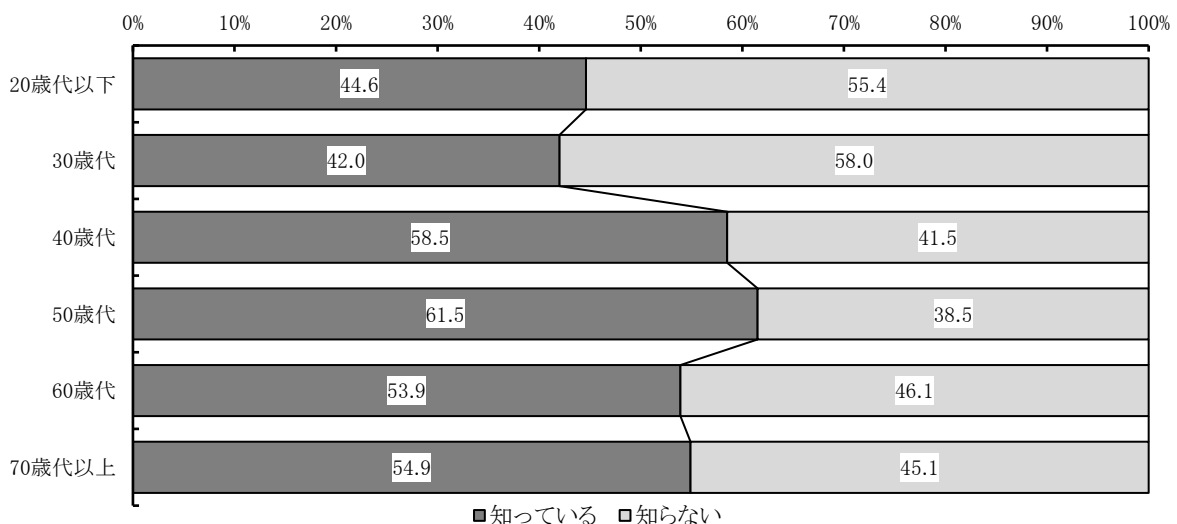
		(%)
(回答者 = 582人)		
1	テレビ、ラジオ、雑誌等のメディア	39.5
2	チラシ、ポスター、教材DVD等の県が発行する広報	6.7
3	免許更新や交通安全教室などの講習	8.9
4	家族や知人から	14.8
5	自転車販売店や保険会社から	24.9
6	その他	5.2

自転車損害保険等加入義務について聞いたところ、「知っている」と答えた人の割合が54.2%、「知らない」が45.8%となっている。



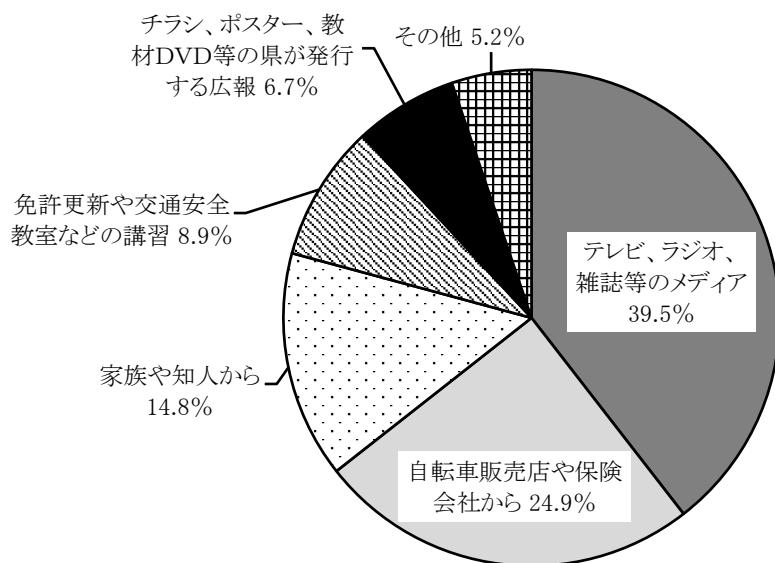
【年齢別】

年齢別にみると、30歳代以下を除く全ての年齢層で「知っている」と答えた人の割合が5割を超え、中でも50歳代(61.5%)が最も多くなっている。



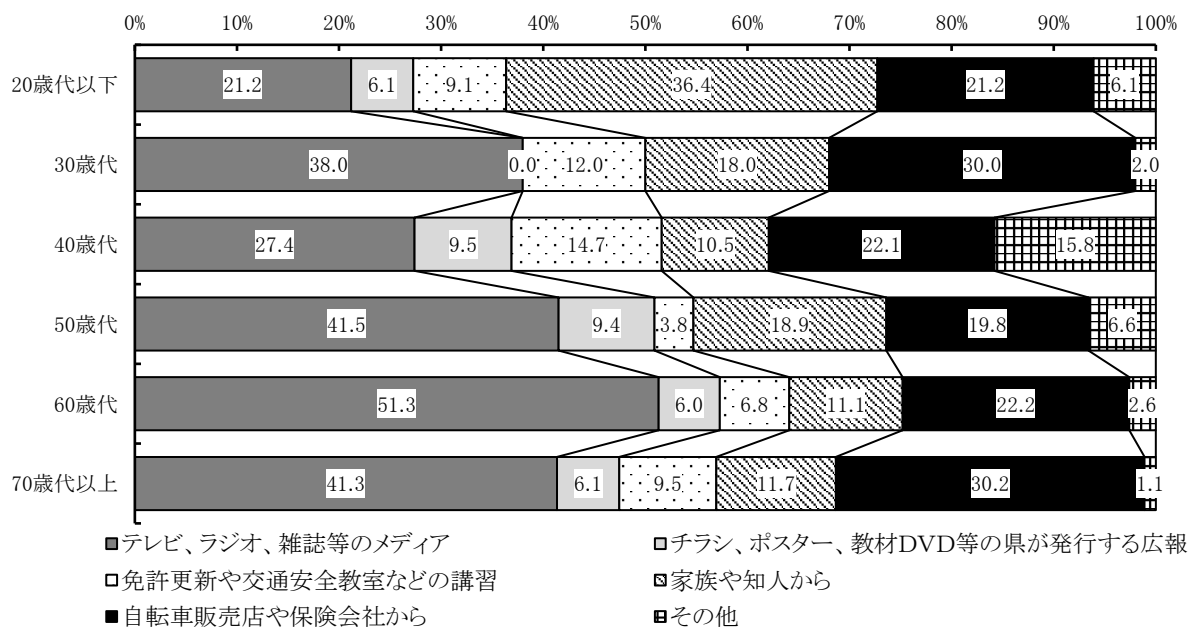
問 38-1 自転車保険等への加入義務化の情報入手先

自転車保険等への加入義務化を知った経緯について聞いたところ、「テレビ、ラジオ、雑誌等のメディア」(39.5%)と答えた人の割合が最も多く、以下「自転車販売店や保険会社から」(24.9%)、「家族や知人から」(14.8%)などの順となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、20歳代以下を除く全ての年齢層で「テレビ、ラジオ、雑誌等のメディア」と答えた人の割合が最も多く、20歳代以下では「家族や知人から」(36.4%)が最も多くなっている。



自転車保険等の加入

問 39 自転車保険等への加入状況

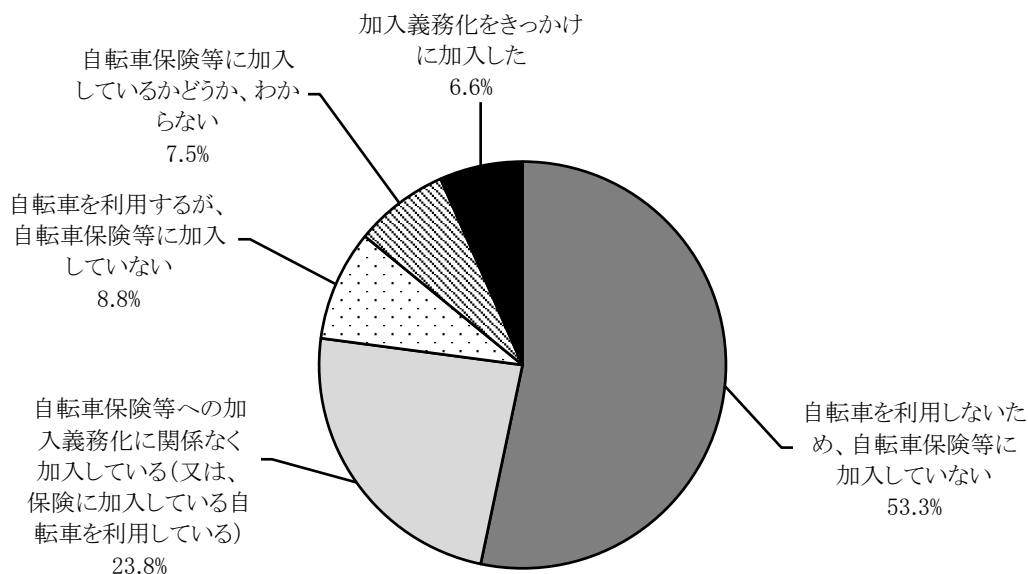
あなたは、自転車損害保険等へ加入していますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 自転車損害保険等への加入義務化に関係なく加入している (又は、保険に加入している自転車を利用している)	23.8
2 加入義務化をきっかけに加入した	6.6
3 自転車保険等に加入しているかどうか、わからない	7.5
4 自転車を利用しないため、自転車保険等に加入していない	53.3
5 自転車を利用するが、自転車保険等に加入していない	8.8

あなたは、どのような状況になれば自転車保険等へ加入しますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

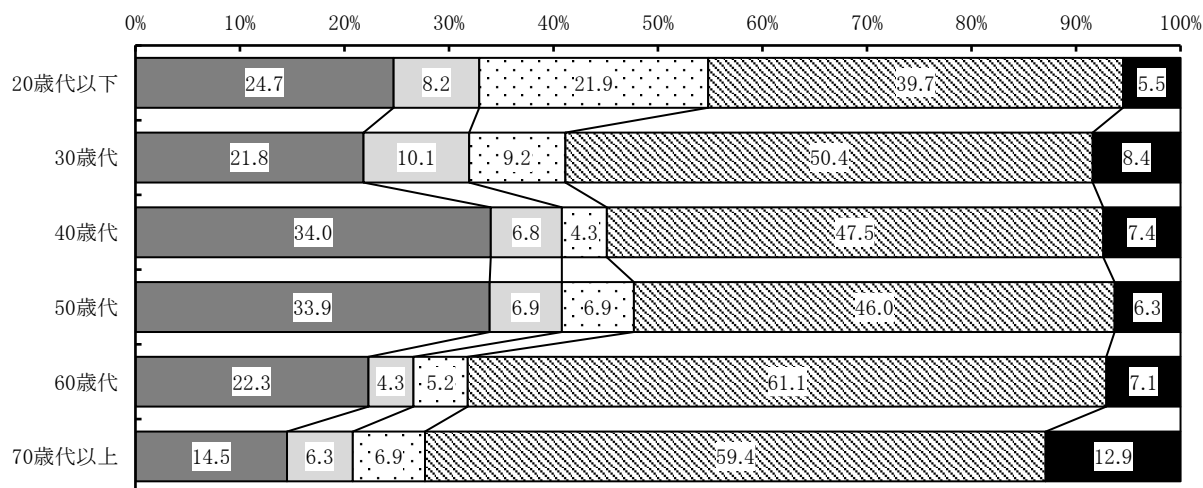
	(回答者=89人)	(%)
1 交通事故に遭ったり、遭いそうになった場合		5.6
2 自賠責保険のように法律で義務化された場合		31.5
3 保険が安価で手厚い保証がされている場合		38.2
4 コンビニや自転車販売店で気軽に加入できる場合		13.5
5 家族や知人に加入を勧められた場合		4.5
6 その他		6.7

自転車損害保険等加入状況について聞いたところ、「自転車を利用しないため、自転車保険等に加入していない」(53.3%)と答えた人の割合が最も多く、以下「自転車損害保険等への加入義務化に関係なく加入している(又は、保険に加入している自転車を利用している)」(23.8%)、「自転車を利用するが、自転車保険等に加入していない」(8.8%)などの順となっている。



【年齢別】

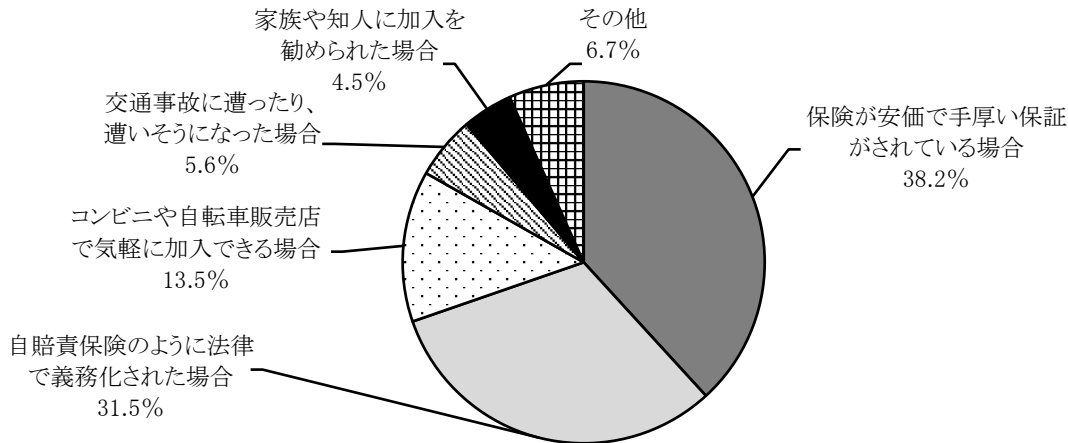
年齢別にみると、全ての年齢層では「自転車を利用しないため、自転車保険等に加入していない」と答えた人の割合が最も多くなっている。「自転車損害保険等への加入義務化に関係なく加入している(又は、保険に加入している自転車を利用している)」は40歳代(34.0%)及び50歳代(33.9%)で多くなっている。



- 自転車保険等への加入義務化に関係なく加入している(又は、保険に加入している自転車を利用している)
- 加入義務化をきっかけに加入した
- 自転車保険等に加入しているかどうか、わからない
- ▨ 自転車を利用しないため、自転車保険等に加入していない
- 自転車を利用するが、自転車保険等に加入していない

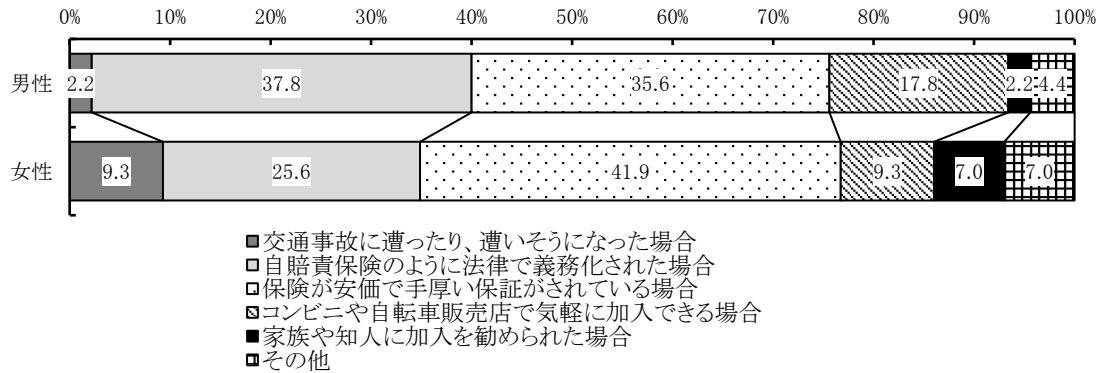
問 39-1 自転車保険等へ加入するきっかけ

どのような状況になれば自転車保険等へ加入するかについて聞いたところ、「保険が安価で手厚い保証がされている場合」(38.2%)と答えた人の割合が最も多く、以下「自賠責保険のように法律で義務化された場合」(31.5%)、「コンビニや自転車販売店で気軽に加入できる場合」(13.5%)の順となっている。



【性別】

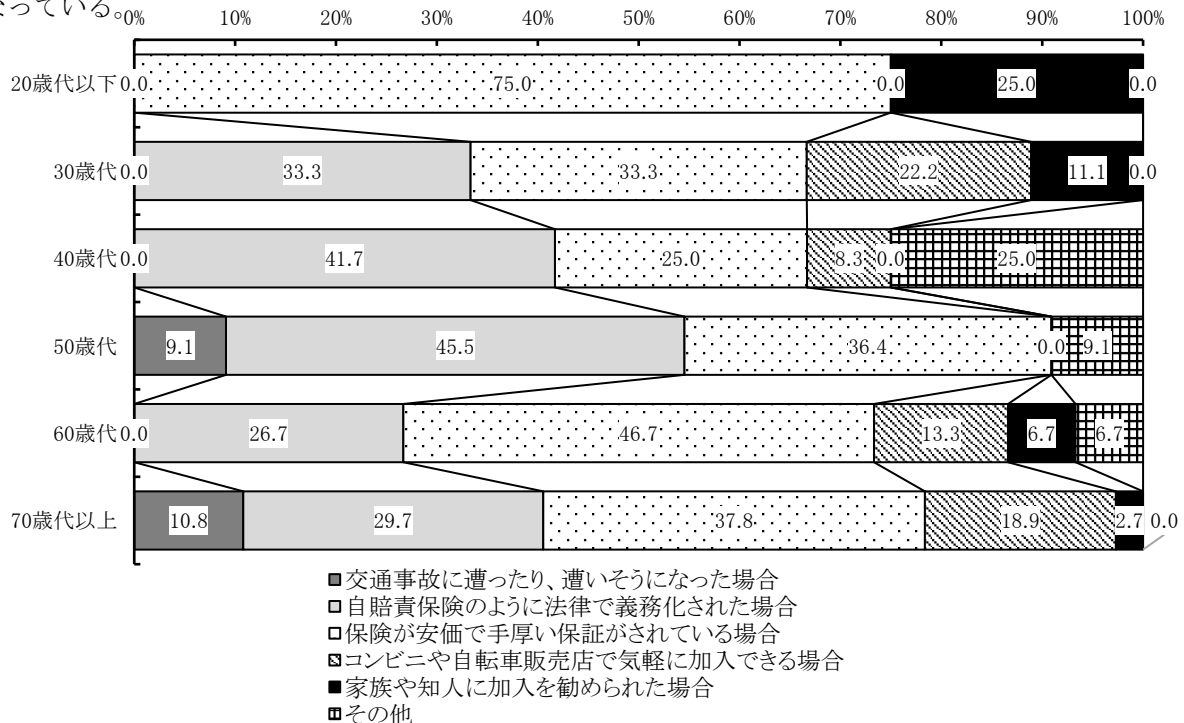
性別にみると、「自賠責保険のように法律で義務化された場合」と答えた人の割合は、男性(37.8%)の方が女性(25.6%)より12.2ポイント多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、30歳代、40歳代及び50歳代では「自賠責保険のように法律で義務化された場合」が最も多く、30歳代では「保険が安価で手厚い保証がされている場合」も同率で最も多くなっている。

また、20歳代以下及び60歳代以上では「保険が安価で手厚い保証がされている場合」が最も多くなっている。



ヘルメットの着用

問 40 ヘルメットの着用状況

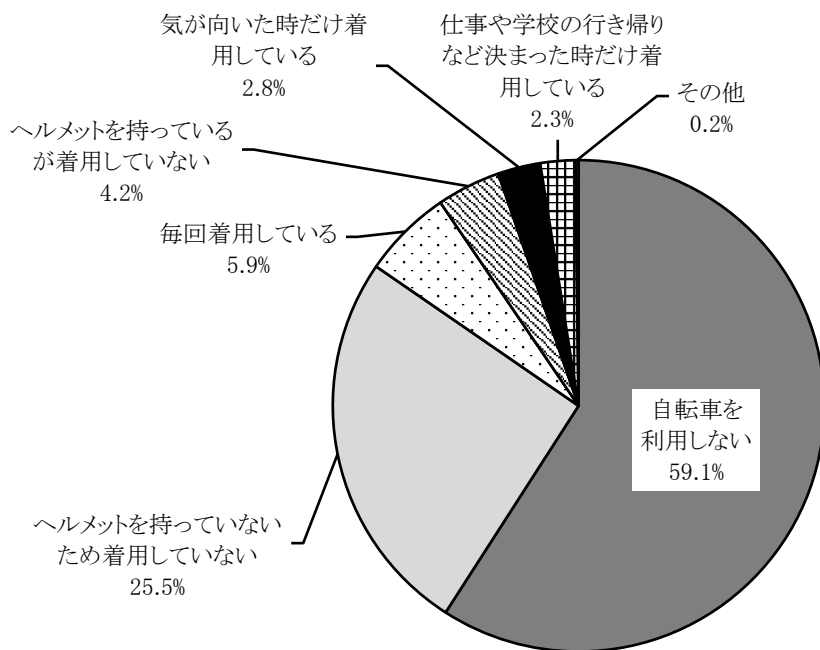
あなたは、自転車乗車中にヘルメットを着用していますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 毎回着用している	5.9
2 仕事や学校の行き帰りなど決まった時だけ着用いる	2.3
3 気が向いた時だけ着用している	2.8
4 ヘルメットを持っているが着用していない	4.2
5 ヘルメットを持っていないため着用していない	25.5
6 自転車を利用しない	59.1
7 その他	0.2

令和5年4月までに、道路交通法で全ての自転車利用者に対してヘルメットの着用が努力義務化されますが、あなたはヘルメットを着用しますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

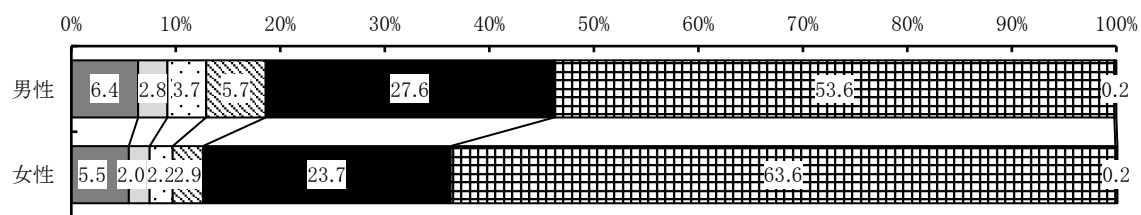
	(回答者 = 288人)	(%)
1 法律で決まったのであれば着用する	42.0	
2 周りの状況を見て着用する	13.9	
3 努力義務のうち着用しない	23.6	
4 ヘルメットを購入するつもりがないため着用しない	10.1	
5 ヘルメットを着用するくらいなら自転車に乗らない	8.7	
6 その他	1.7	

ヘルメットの着用状況について聞いたところ、「自転車を利用しない」(59.1%)と答えた人の割合が最も多く、以下「ヘルメットを持っていないため着用していない」(25.5%)、「毎回着用している」(5.9%)の順となっている。



【性別】

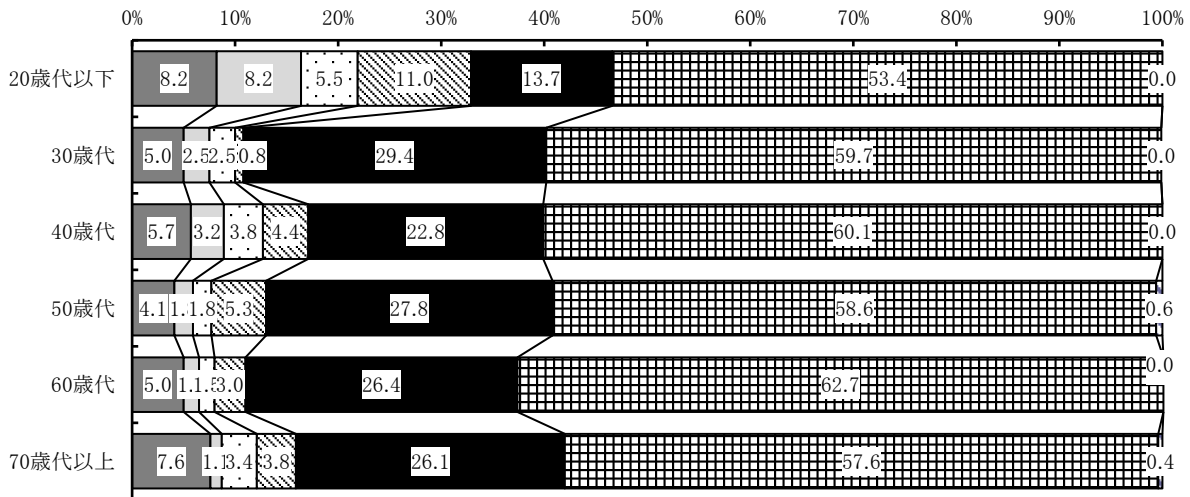
性別にみると、男女共に「自転車を利用しない」と答えた人の割合が最も多くなっており、「ヘルメットを持っていないため着用していない」と答えた人の割合は、男性(27.6%)の方が女性(23.7%)より3.9ポイント多くなっている。



- 毎回着用している
- 仕事や学校の行き帰りなど決まった時だけ着用している
- 気が向いた時だけ着用している
- ▣ ヘルメットを持っているが着用していない
- ヘルメットを持っていないため着用していない
- ▣ 自転車を利用しない
- ▣ その他

【年齢別】

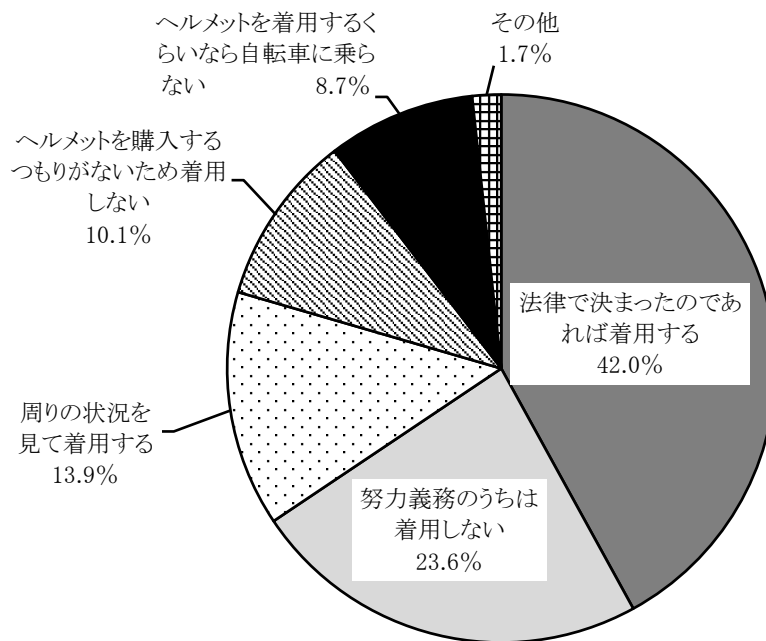
年齢別にみると、全ての年齢層で「自転車を利用しない」と答えた人の割合が最も多くなっている。60歳代（62.7%）が最も多く、20歳代以下（53.4%）が最も少なくなっている。



- 毎回着用している
- 仕事や学校の行き帰りなど決まった時だけ着用している
- 気が向いた時だけ着用している
- ▨ ヘルメットを持っているが着用していない
- ヘルメットを持っていないため着用していない
- 自転車を利用しない
- その他

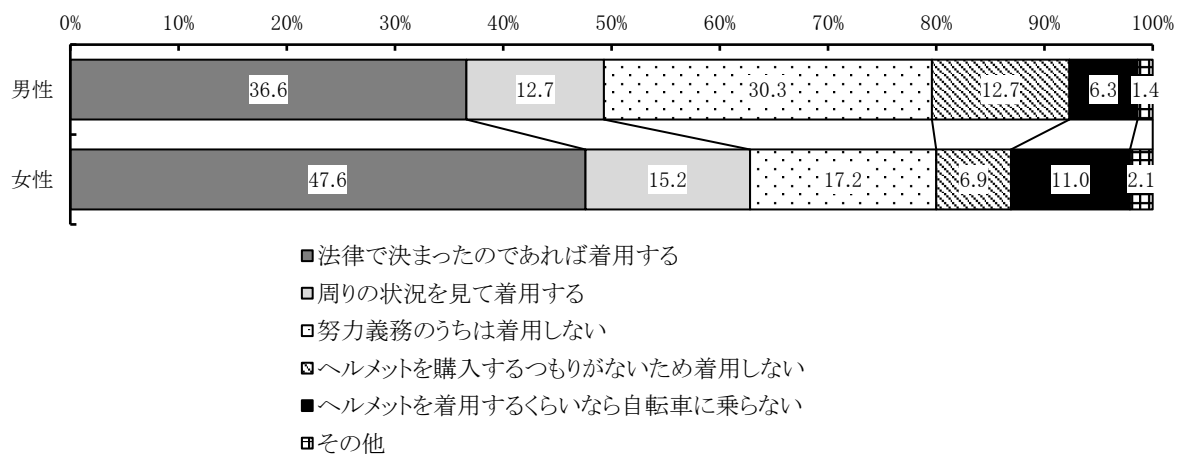
問 40-1 ヘルメット着用努力義務化

ヘルメットの着用状況について聞いたところ、「法律で決まったのであれば着用する」(42.0%)と答えた人の割合が最も多く、以下「努力義務のうち着用しない」(23.6%)、「周りの状況を見て着用する」(13.9%)の順となっている。



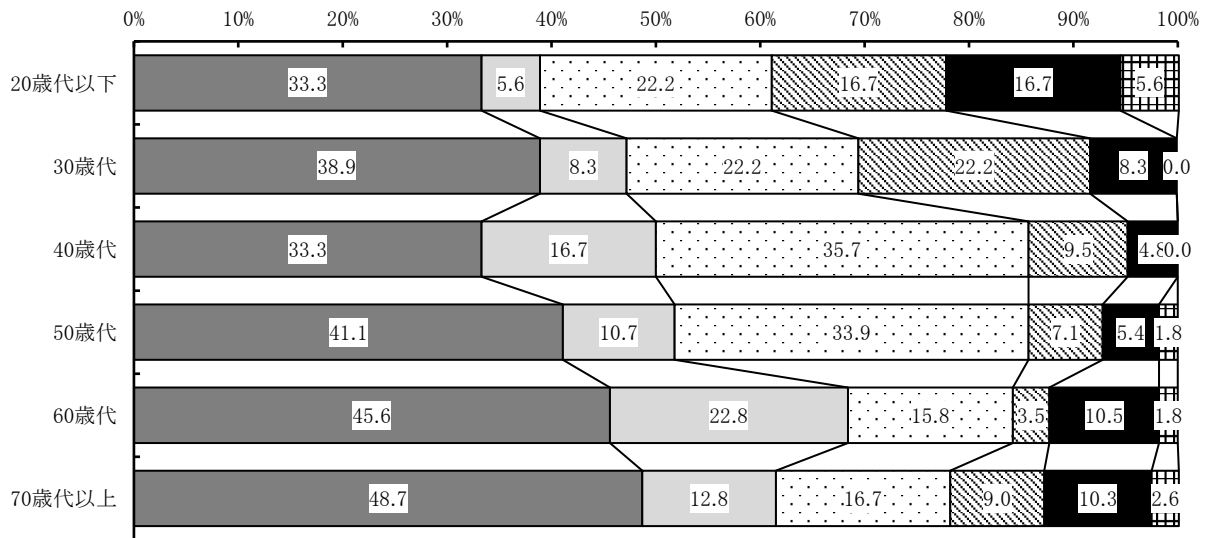
【性別】

性別にみると、男女共に「法律で決まったのであれば着用する」と答えた人の割合が最も多くなっている。「法律で決まったのであれば着用する」と答えた人の割合は、女性(47.6%)の方が男性(36.6%)より11.0ポイント多くなっている。「努力義務のうち着用しない」と答えた人の割合は、男性(30.3%)の方が女性(17.2%)より13.1ポイント多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、40歳代を除く全ての年齢層で「法律で決まったのであれば着用する」と答えた人の割合が最も多く、40歳代では「努力義務のうちは着用しない」が最も多くなっている。



- 法律で決まったのであれば着用する
- 周りの状況を見て着用する
- 努力義務のうちは着用しない
- ▨ ヘルメットを購入するつもりがないため着用しない
- ヘルメットを着用するくらいなら自転車に乗らない
- ▨ その他

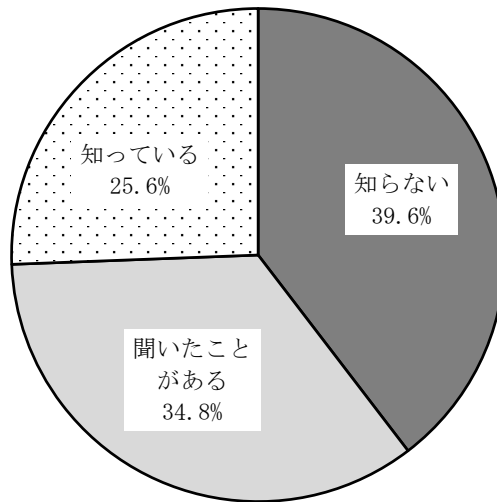
生物多様性の保全

問 41 「生物多様性」という言葉の認知度

「生物多様性」とは、地域には固有の自然があり、それぞれに特有の数多くの生き物が存在し、そしてそれらが様々な関係で繋がりにあっている状態のことであり、我々は、こうした自然から衣食住に始まり、豊かな文化、災害防止などの安全・安心の基礎など、様々な恩恵（生態系サービス）を受けています。あなたは、「生物多様性」という言葉をご存じですか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

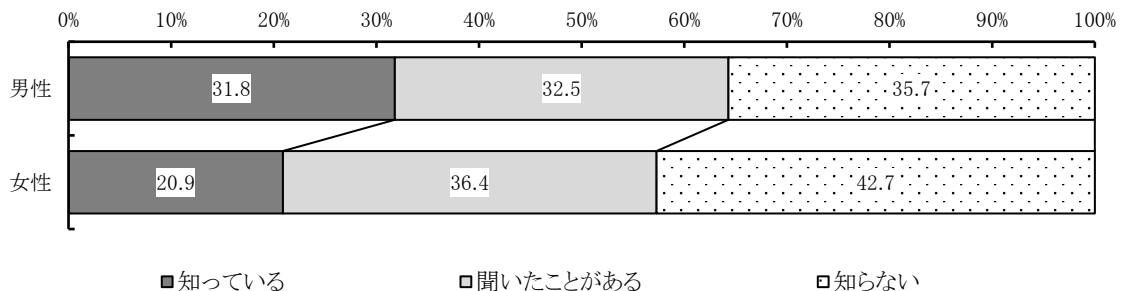
	(%)
1 知っている	25.6
2 聞いたことがある	34.8
3 知らない	39.6

生物多様性について聞いたところ、「知らない」(39.6%)と答えた人の割合が最も多く、以下「聞いたことがある」(34.8%)、「知っている」(25.6%)の順となっている。



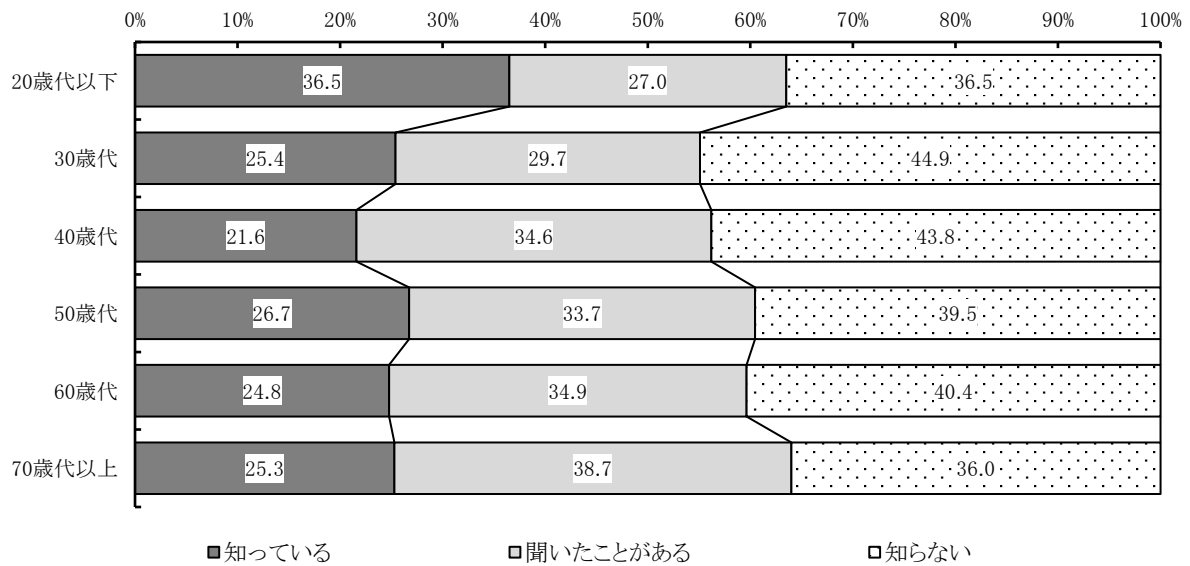
【性別】

性別にみると、男女共に「聞いたことがある」と答えた人の割合が最も多くなっており、「知っている」と答えた人の割合は、男性(31.8%)の方が女性(20.9%)より10.9ポイント多くなっている。



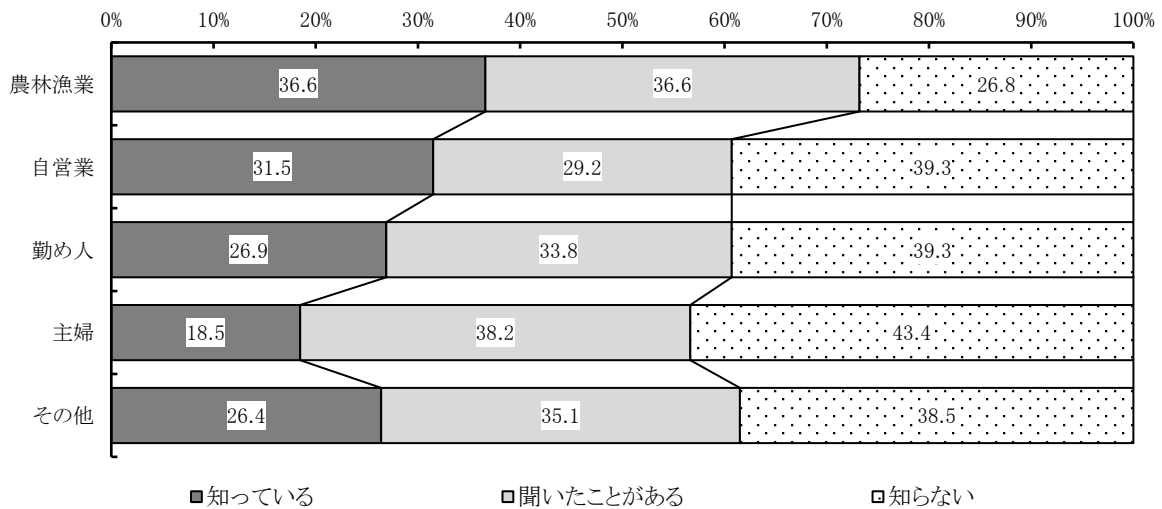
【年齢別】

年齢別にみると、70歳以上を除く全ての年齢層では「知らない」が最も多く、20歳代以下では同率で「知っている」が最も多く、70歳以上では「聞いたことがある」が最も多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、農林漁業を除く全ての職業で「知らない」と答えた人の割合が最も多くなっている。農林漁業では「知っている」と「聞いたことがある」が同率で最も多くなっている。



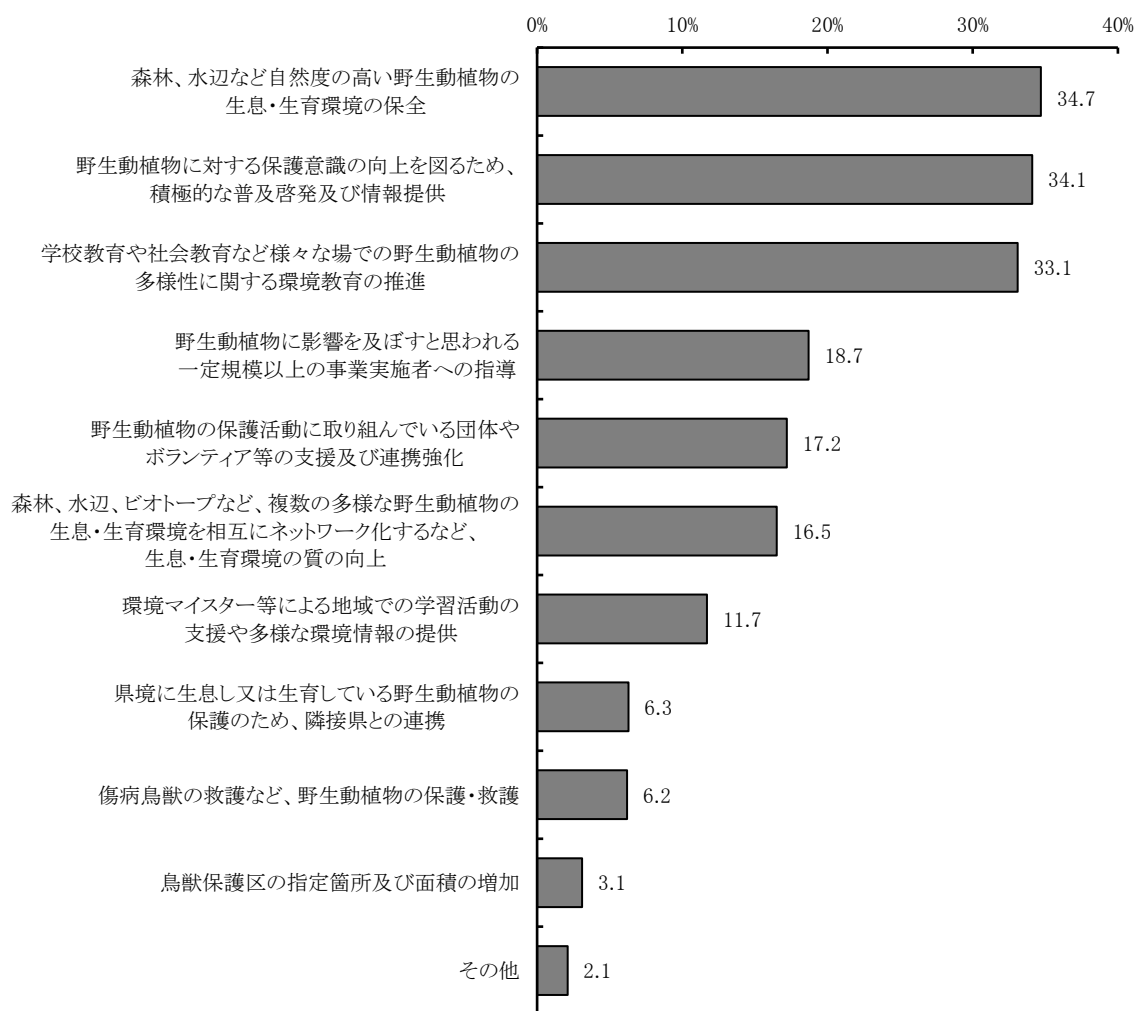
問 41-1 生物多様性保全のための取組み

将来にわたって、生物多様性の保全を図っていくために、今後、県はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを三つまで選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 野生動植物に対する保護意識の向上を図るため、積極的な普及啓発及び情報提供	34	1
2 環境マイスター（注1）等による地域での学習活動の支援や多様な環境情報の提供	11	7
3 野生動植物に影響を及ぼすと思われる一定規模以上の事業実施者への指導	18	7
4 森林、水辺など自然度の高い野生動植物の生息・生育環境の保全	34	7
5 森林、水辺、ビオトープ（注2）など、複数の多様な野生動植物の生息・生育環境を相互にネットワーク化するなど、生息・生育環境の質の向上	16	5
6 傷病鳥獣の救護など、野生動植物の保護・救護	6	2
7 鳥獣保護区の指定箇所及び面積の増加	3	1
8 学校教育や社会教育など様々な場での野生動植物の多様性に関する環境教育の推進	33	1
9 野生動植物の保護活動に取り組んでいる団体やボランティア等の支援及び連携強化	17	2
10 県境に生息し又は生育している野生動植物の保護のため、隣接県との連携	6	3
11 その他	2	1

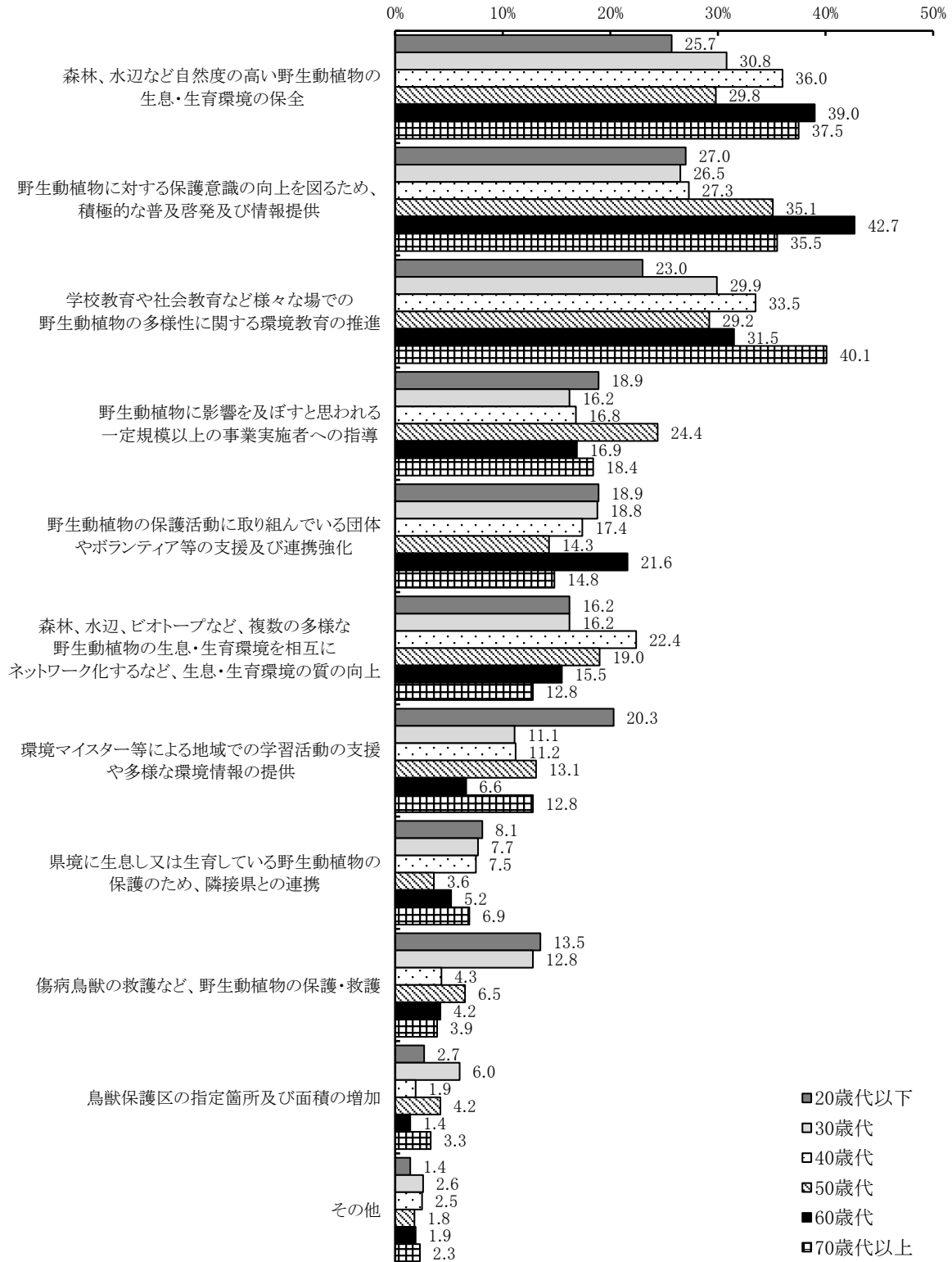
(注1) 環境マイスター：地域の環境学習活動等に派遣される県内の登録された研究者等

(注2) ビオトープ：生物が住んでいる場所のことで、生息場所とも言われる



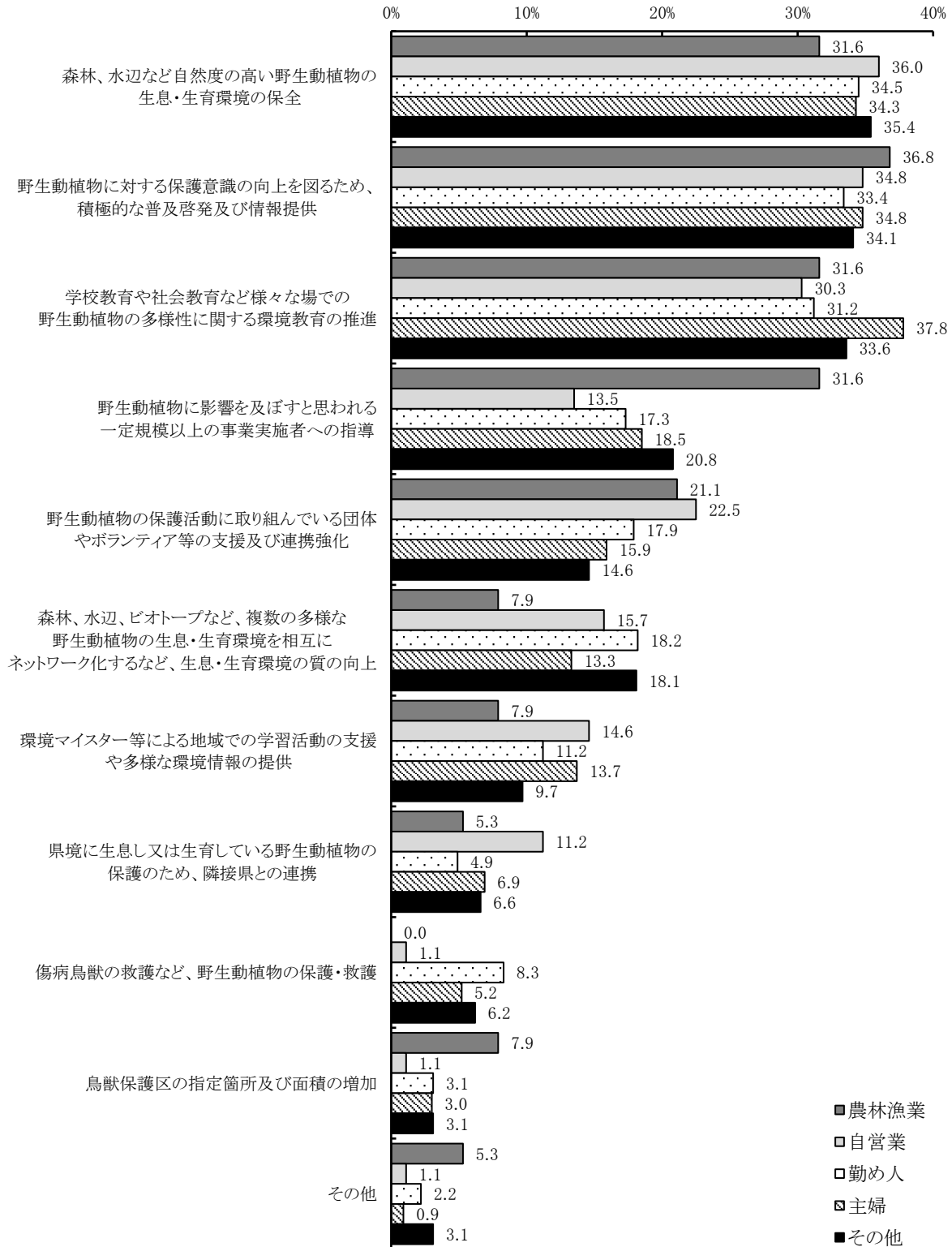
【年齢別】

年齢別にみると、20歳代以下、50歳代及び60歳代では「野生動植物に対する保護意識の向上を図るため、積極的な普及啓発及び情報提供」と答えた人の割合が最も多く、30歳代及び40歳代では「森林、水辺など自然度の高い野生動植物の生息・生育環境の保全」が最も多く、70歳代以上では「学校教育や社会教育など様々な場での野生動植物の多様性に関する環境教育の推進」が最も多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、農林漁業及び主婦を除く全ての職業で「森林、水辺など自然度の高い野生動植物の生息・生育環境の保全」と答えた人の割合が最も多くなっている。農林漁業では「野生動植物に対する保護意識の向上を図るため、積極的な普及啓発及び情報提供」が最も多く、主婦では「学校教育や社会教育など様々な場での野生動植物の多様性に関する環境教育の推進」が最も多くなっている。



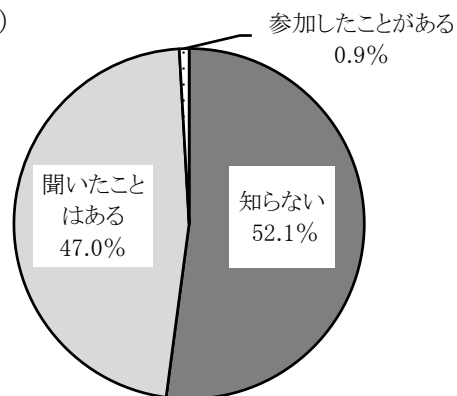
ねんりんピック愛顔のえひめ2023の認知度

問42 ねんりんピックの認知度

あなたは、高齢者の福祉の祭典であるねんりんピック（全国健康福祉祭）について、知っていますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

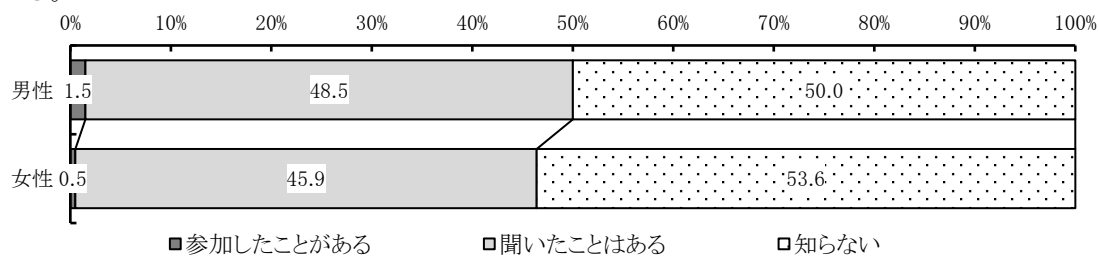
	(%)
1 参加したことがある	0.9
2 聞いたことはある	47.0
3 知らない	52.1

高齢者の福祉の祭典であるねんりんピック（全国健康福祉祭）について、知っているかを聞いたところ、「知らない」（52.1%）と答えた人の割合が最も多く、以下「聞いたことはある」（47.0%）、「参加したことがある」（0.9%）の順となっている。



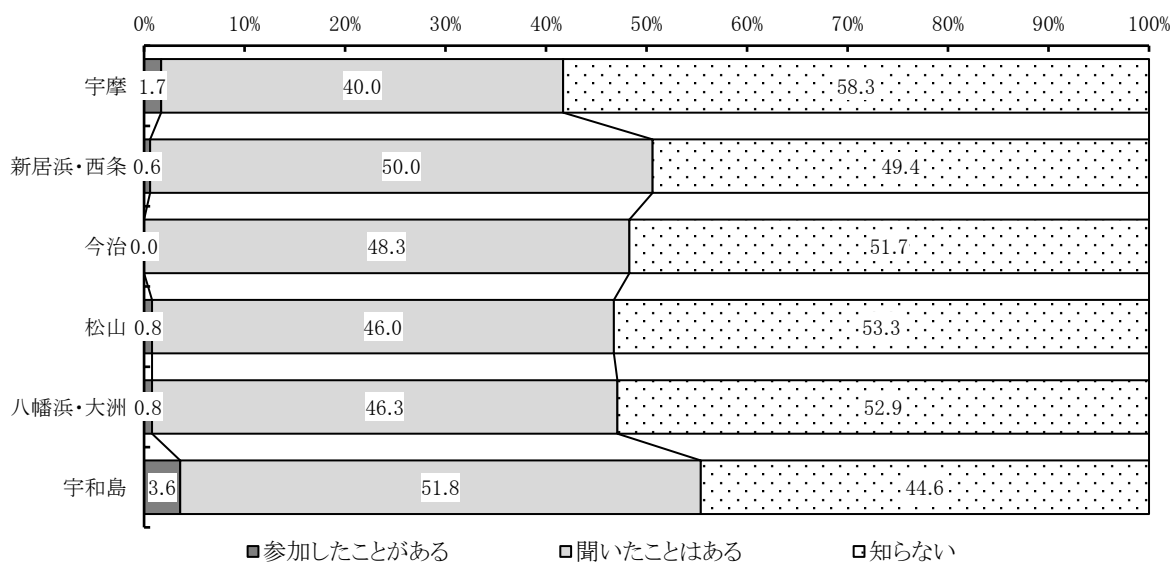
【性別】

性別にみると、男女共に「知らない」と答えた人の割合が最も多くなっている。（男性 50.0%、女性 53.6%）、「知らない」と答えた人の割合は、女性（53.6%）の方が男性（50.0%）より3.6ポイント多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、新居浜・西条圏域及び宇和島圏域を除く全ての圏域で「知らない」と答えた人の割合が最も多くなっている。また、新居浜・西条圏域及び宇和島圏域では「聞いたことはある」と答えた人の割合が最も多くなっている。

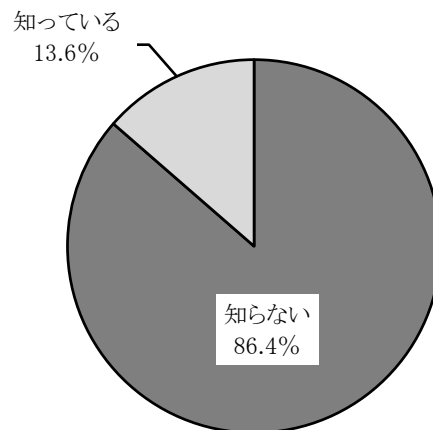


問 42-1 ねんりんピック開催状況の認知度

あなたは、ねんりんピックが令和5年10月に本県で開催されることを知っていますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

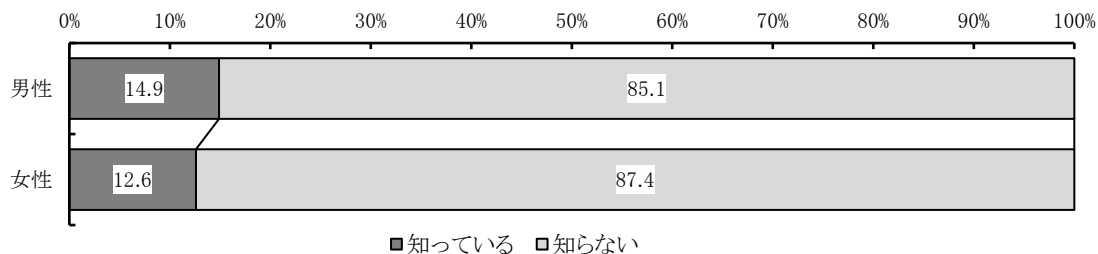
	(%)
1 知っている	13.6
2 知らない	86.4

ねんりんピックが令和5年10月に本県で開催されることについて聞いたところ、「知らない」(86.4%)と答えた人の割合が最も多く、以下「知っている」(13.6%)の順となっている。



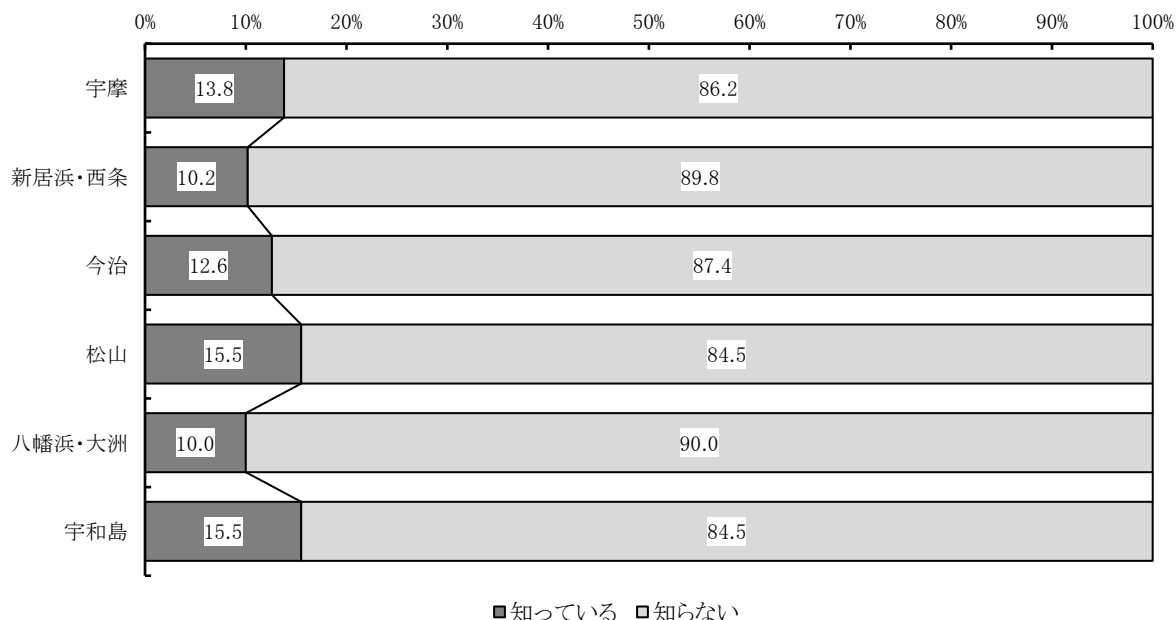
【性別】

性別にみると、男女共に「知らない」と答えた人の割合が最も多くなっている。(男性 85.1%、女性 87.4%)、「知っている」と答えた人の割合は、男性 (14.9%) の方が女性 (12.6%) より 2.3 ポイント多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「知らない」と答えた人の割合が最も多くなっている。「知っている」と答えた割合の人は松山圏域及び宇和島圏域が同率で最も多くなっている。



文化財の関心度

問 43 文化財の見学状況

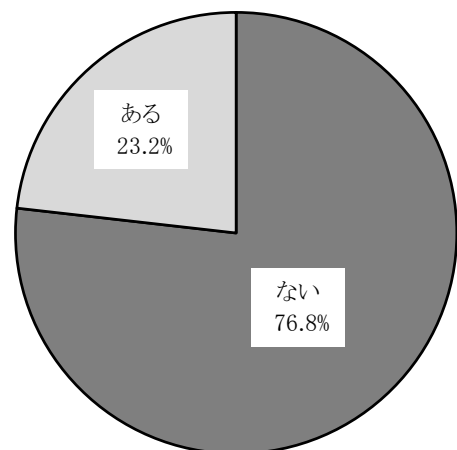
あなたは、過去1年間（令和3年1月から令和3年12月まで）に、国・地方公共団体が指定・選定を行っている文化財を見学したことがありますか。次の中から二つ選んで番号を○で囲んでください。

		(%)
1	ある	23.2
2	ない	76.8

どのような文化財を見学されましたか。見学した文化財の種類について、次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

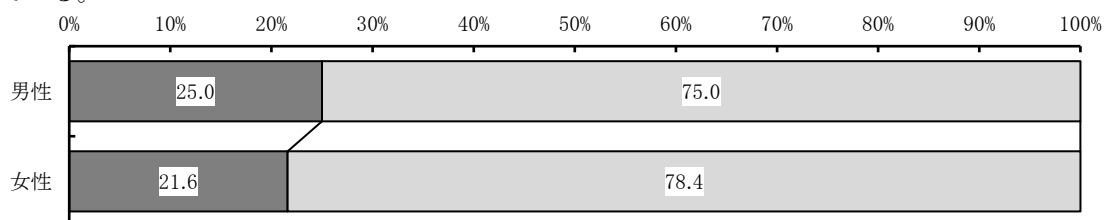
		(%)
(回答者 = 250人) (複数回答)		
1	建造物	62.0
2	絵画・彫刻・古文書等の美術工芸品	43.2
3	演劇・音楽・工芸技術等の無形文化財	9.2
4	生業・信仰・年中行事等の民俗文化財	11.2
5	史跡・名勝地・天然記念物	48.4
6	棚田・段畑等の文化的景観	16.8
7	伝統的建造物群保存地区	15.2

過去1年間（令和3年1月から令和3年12月まで）に、国・地方公共団体が指定・選定を行っている文化財を見学したことがあるか聞いたところ、「ある」と答えた人の割合が23.2%、「ない」が76.8%となっている。



【性別】

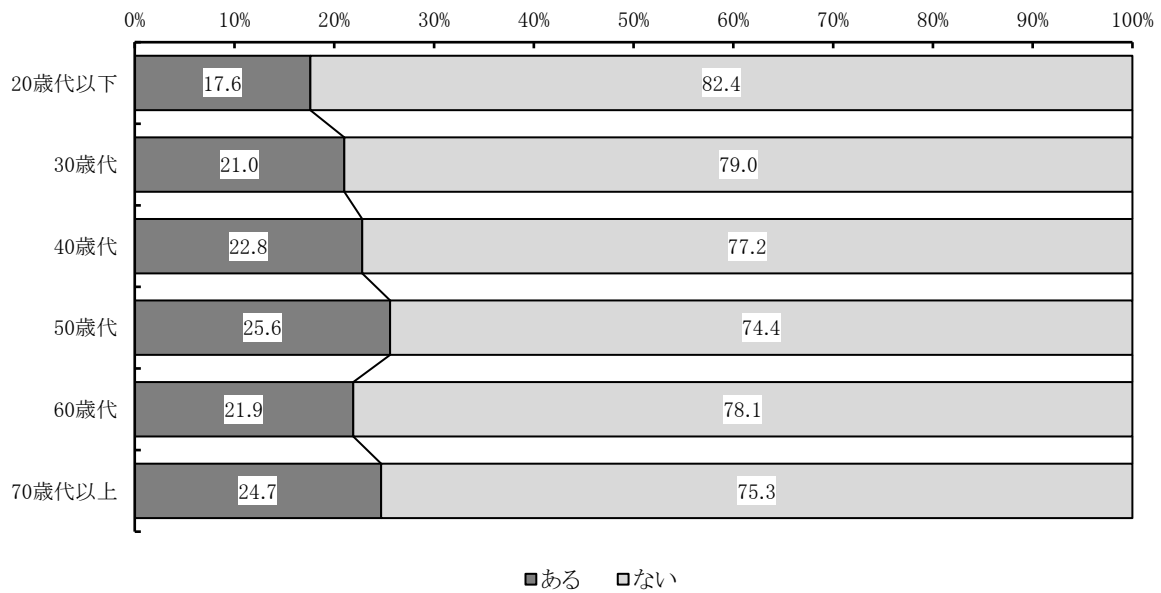
性別で見ると、「ある」と答えた人の割合は、男性（25.0%）の方が女性（21.6%）より3.4ポイント多くなっている。



■ある □ない

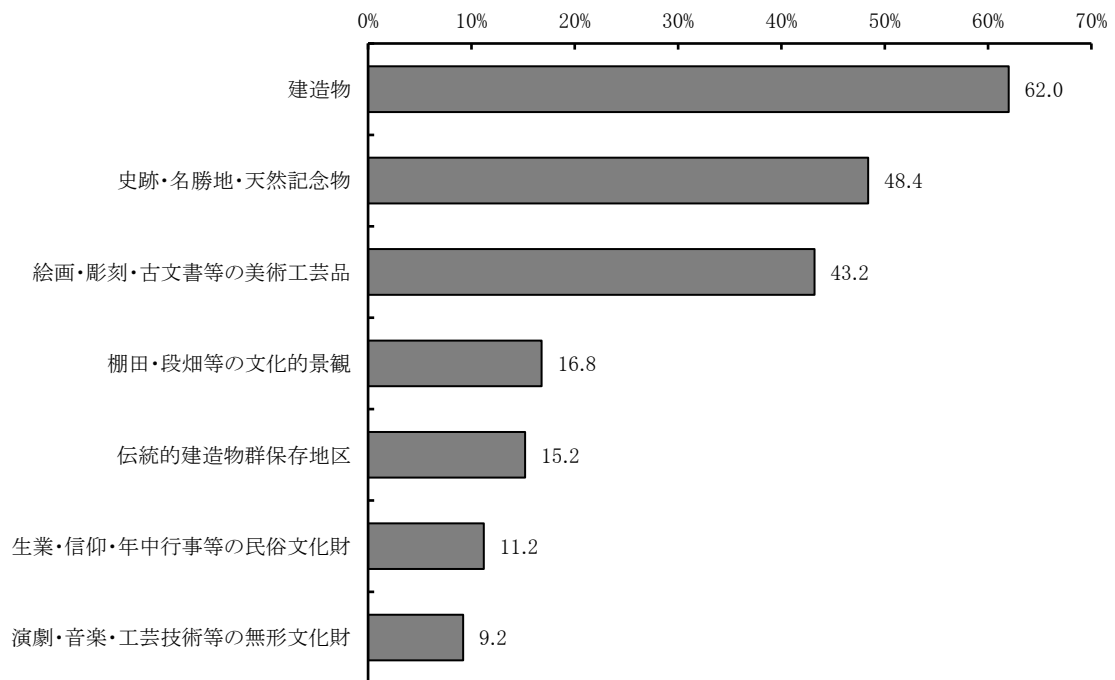
【年齢別】

年齢別でみると、「ある」と答えた人の割合は、全ての年齢層で3割未満となっている。



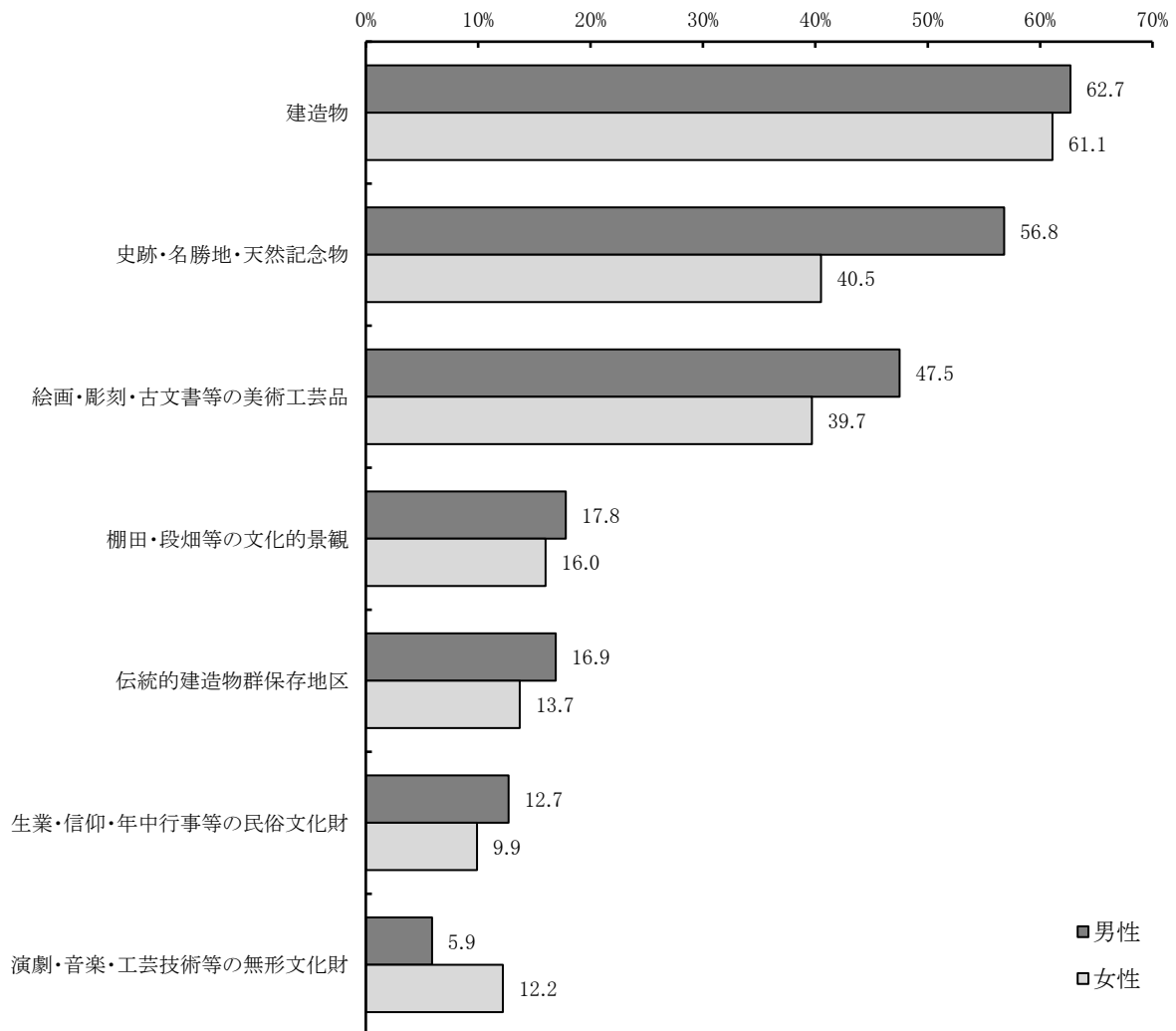
問 43-1 見学したことがある文化財

過去1年間に文化財を見学したことがある人に、見学したことがある文化財の種類を聞いたところ、「建造物」(62.0%)と答えた人の割合が最も多く、以下「史跡・名勝地・天然記念物」(48.4%)、「絵画・彫刻・古文書等の美術工芸品」(43.2%)、「棚田・段畑等の文化的景観」(16.8%)、「伝統的建造物群保存地区」(15.2%)などの順となっている。



【性別】

性別でみると、男女共に「建造物」と答えた人の割合が最も多くなっている。「演劇・音楽・工芸技術等の無形文化財」と答えた人の割合は、女性の方が男性より多くなっているが、それ以外は男性の方が女性より多くなっている。「史跡・名勝地・天然記念物の記念物」と答えた人の割合は、男性（56.8%）の方が女性（40.5%）より16.3ポイント多くなっている。「演劇・音楽・工芸技術等の無形文化財」と答えた人の割合は、女性（12.2%）の方が男性（5.9%）より6.3ポイント多くなっている。



【年齢別】

年齢別でみると、全ての年齢層で「建造物」と答えた人の割合が最も多く6割を超えている。

また、60歳代では「史跡・名勝地・天然記念物」及び「絵画・彫刻・古文書等の美術工芸品」と答えた人の割合が他の年齢層と比較して最も多くなっている。

